



第14回世界スカウトユースフォーラム派遣 及び 第42回世界スカウト会議派遣 報告書

Ver. 0.2

(最終更新:2022/3/31 01:04)

作成: 第14回世界スカウトユースフォーラム日本派遣団

荒岡 草馬 小池 さくら
武田 蒼 俣野 陽 北村 梨沙



はじめに

新型コロナウイルスの世界的な蔓延が続く中、第14回世界スカウトユースフォーラム、および第42回世界スカウト会議は、史上初のオンライン形式で開催された。対面で他国のスカウトと議論・交流することは叶わなかったが、今回の世界フォーラムには世界各国から713名のスカウトが集い、過去最高の参加者数を記録した。また、世界会議のアジェンダには、ユースアドバイザー制度の廃止や世界フォーラムと世界会議の統合といった、ユース年代にとって重要な内容が多く扱われ、それらの議題に対しては、世界フォーラム中も熱い議論が繰り広げられた。

我々派遣団は、選考からこの報告書の作成期間に至るまで、一度も対面で集合することはなかった。しかし、各種オンラインツールを活用することでコミュニケーションの壁は克服し、それぞれが自身の役割に責任をもって取り組んだことにより、最後までチームワークを維持することができた。

世界フォーラムの参加を通じて、我々が当初抱いていた問題意識はより具体的なものとなり、また、多くの外国スカウトと議論・交流をする中で、これまであまり考えることのなかった新しい視点も得られた。我々は、この経験を単なる「思い出」に留めるのではなく、日本のスカウティングをより良いものにするための「原動力」として、我々がこの世界フォーラムへの参加を通じて得た知見をすべてのスカウト関係者に共有する責務があると考えている。

この報告書には、我々派遣団が世界フォーラムに参加した記録を残すことだけでなく、今後のユースを取り巻く日本国内のスカウティングのあり方について、派遣団としての提言を示すという意義もある。繰り返しになるが、我々はこの提言内容が、あまねく国内のスカウト及び成人指導者に共有され、日本のスカウティングが抱える課題に対して行動を起こす契機を与えるものになることを強く願う。

第14回世界スカウトユースフォーラム派遣団

首席代表 荒岡草馬



目次

はじめに	2
目次	3
1 派遣基礎情報	5
1.1 派遣概要	5
1.2 新型コロナウイルスによる影響について	5
1.3 派遣員紹介	6
1.4 派遣期間中の全体スケジュール	7
2. 事前準備	9
2.1 派遣団の目的・目標の決定	9
2.2 世界フォーラムの概要理解とドキュメントの輪読	10
2.2.1 世界フォーラムの概要理解	10
2.2.2 ドキュメントの輪読	10
2.3 広報活動について	11
2.3.1 派遣団 Facebook	11
2.3.2 派遣団ロゴマーク	12
2.4 他国代表団との交流について	13
2.4.1 交流国一覧	13
2.4.2 交流ツールについて	15
(1) バーチャル背景	15
(2) Facebook フレーム	16
(3) 日本のスカウティングに関する紹介スライド	16
3. 派遣当日の動き	17
3.1 第14回世界スカウトユースフォーラム	17
3.1.1 概要	17
3.1.2 スケジュール	18
3.1.3 インターナショナルチームについて	19
(1) 初顔合わせとアイスブレイク	20
(2) 世界フォーラム宣言文の作成	20
(3) 決議案に対する修正案の作成	20
(4) その他	21
3.1.4 オンラインでの開催について	22
(1) オンラインプラットフォーム	22
(2) E-Votingシステム	23
(3) 派遣メンバー同士のコミュニケーション	23
3.1.5 ユースアドバイザーの選出	25
(1) 候補者	25
(2) 投票と結果	26



3.1.6 最終宣言	29
3.1.7 世界スカウト会議決議の修正案	37
(1) 世界3ヵ年計画2021-2024の目標	37
(2) 2021-D スカウト活動におけるセーフ・フロム・ハームの強化	40
(3) 2021-F 世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議の発展	41
(4) 2021-G ユースアドバイザー制度と意思決定への青年参画	41
(5) 2021-H WOSM の環境持続性の強化	42
(6) 2021-I スカウトイベントにおけるレジリエンスとリスクマネジメント	43
3.2 第42回世界スカウト会議	44
3.2.1 概要	44
3.2.2 スケジュール	45
3.2.3 決議事項	46
3.2.4 評価反省	47
4. 派遣終了後	49
4.1 報告書の作成	49
4.2 RCJ イベントとの連携	49
5. 評価・反省	51
5.1 目的・目標について	51
(1) 目的に対する評価・反省	51
(2) 目標に対する評価・反省	51
5.2 派遣全体について	53
(1) 派遣前	53
(2) 派遣当日	53
(3) 派遣後	54
6. 派遣メンバー所感	55
7. 日本派遣団としての提言	60
資 料	61
関連リンク集	62



1. 派遣基礎情報

1.1 派遣概要

名 称： 第14回世界スカウトユースフォーラム 第42回世界スカウト会議派遣

期 間： 2021年8月18日(水)～22日(日)、8月25日(水)～29日(日)

場 所： オンライン開催

※各派遣の詳細については、「[3. 派遣当日の動き](#)」を参照。

1.2 新型コロナウイルスによる影響について

2020年にエジプトでの開催を予定されていた世界スカウトユースフォーラム(以下「世界フォーラム」)ならびに世界スカウト会議(以下「世界会議」)は、新型コロナウイルスの影響で延期となった。また翌年の2021年には、全世界における新型コロナウイルスの蔓延に鑑み、世界フォーラムならびに世界会議はオンラインでの開催となった(下記参照)。またオンライン開催ということで、参加連盟、参加人数ともに最多のものとなった。

オンライン開催にあたり、オンラインプラットフォームが世界会議(以下「WOSM」)より提供され、事前に利用方法のサポートセッションが開催された。その他にも世界フォーラム運営メンバーにより、ユース向け SNS(Facebook, WhatsApp 等)グループが作成され、世界フォーラム前からアナウンス等が行われていた。また電子投票システムを利用して投票作業を行なった。

【世界フォーラム及び世界会議のオンライン開催までの流れ】

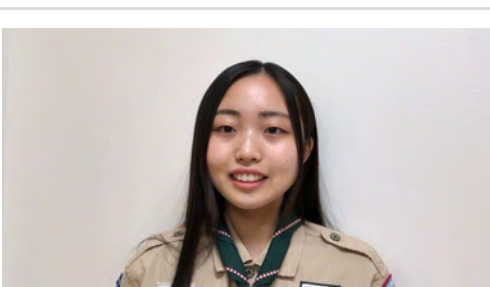
2020年4月27日 投票による延期決定
(147加盟団体中 賛成:145、反対:0、棄権:2)

2020年10月2日 延期日程の発表
-世界フォーラム:2021年8月16日～8月20日
-世界会議:2021年8月23日～8月27日

2021年1月21日 オンライン開催・日程変更等についての投票公示
-オンライン／バーチャル開催
-世界フォーラム:2021年8月18日～8月22日
-世界会議:2021年8月25日～8月29日
-世界フォーラム／世界会議の規則案決議

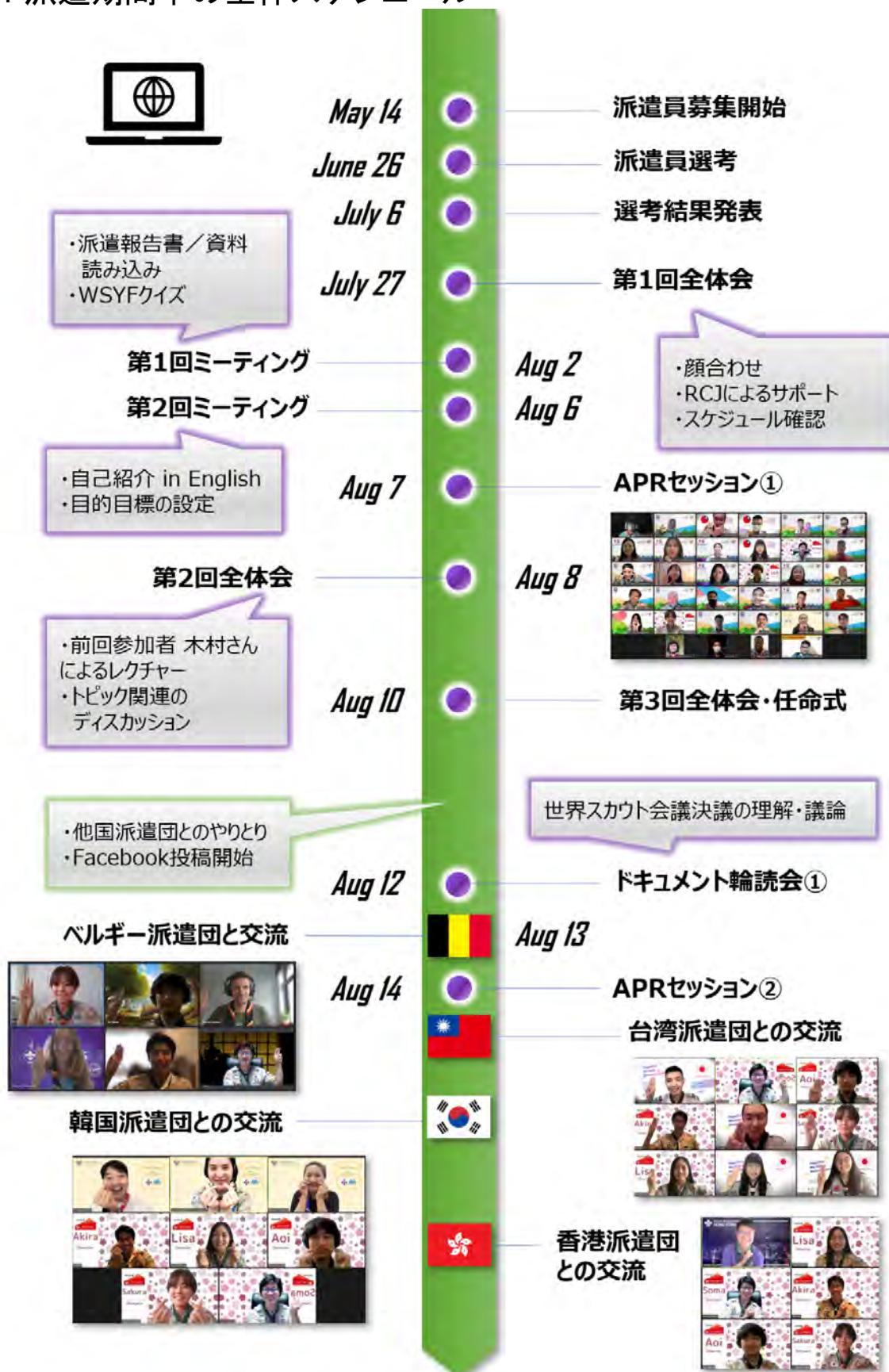
2021年2月17日 オンライン開催・日程変更等の決定
(150加盟団体中 賛成:141、反対:7、棄権:2)

1.3 派遣員紹介

	荒岡 草馬 (Soma Araoka) 25歳 福岡県連盟 福岡第19団 ローバースカウト隊 世界フォーラム: 首席代表 世界会議: 青年代表 座右の銘: スカウトは微笑みの口笛を吹く 思い出: テント・炊具なしの1級キャンプ
	小池 さくら (Sakura Koike) 19歳 愛知連盟 日進第2団 ローバースカウト隊 世界フォーラム: 代表 世界会議: オブザーバー 座右の銘: 日々の善行・・・！！ 思い出: 大雨洪水の中Aテン下に水路掘った
	武田 蒼 (Aoi Takeda) 19歳 山形県連盟 山形市第1団 ローバースカウト隊 世界フォーラム: オブザーバー 世界会議: オブザーバー 座右の銘: 少年よ大志を抱け 思い出: 極寒猛吹雪の雪中キャンプ
	俣野 陽 (Akira Matano) 23歳 東京連盟 渋谷第5団 ローバースカウト隊 世界フォーラム: オブザーバー 世界会議: オブザーバー 座右の銘: 四苦八喜 思い出: 1stICCSJ の最終日に体調を崩した
	北村 梨沙 (Lisa Kitamura) 19歳 島根連盟 松江第1団 ローバースカウト隊 世界フォーラム: オブザーバー 世界会議: オブザーバー 座右の銘: 尾を泥中に曳く 思い出: 23WSJ で顎が外れた



1.4 派遣期間中の全体スケジュール





派遣団公式
Facebookスタート！a

Aug 15

ドキュメント輪読会②

ドキュメント輪読会③

Aug 16

新しいスカウトイベントについて

世界3カ年計画
2021-2024

Aug 17

ドキュメント輪読会④

インドネシア派遣団との交流

Aug 18

世界3カ年計画2021-2024
具体的な施策案



アゼルバイジャン派遣団との交流



第14回世界スカウト
ユースフォーラム
14h World Scout Youth Forum



Aug 22

ドイツ派遣団との交流



Aug 25

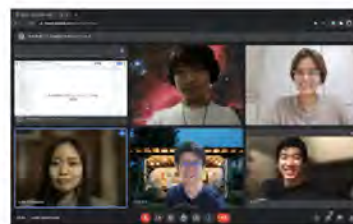
第42回世界スカウト会議
42nd World Scout Conference



Aug 29

報告書作成開始

Sep 3 ~





2. 事前準備

2.1 派遣団の目的・目標の決定

目 的
1. 他国の代表との議論の中で日本代表団としての意思を主体的に表明し、世界規模の青年による意思決定のプロセスに関わる。
2. 日本のスカウティングの現状と課題を把握した上で、世界レベルの議論への参加を通じて得られた知見をもとにそれを評価し、代表団として日本のスカウト運動に参画する。

目 標
1. 世界スカウト会議議案に対する日本代表団としての意見をまとめる。
2. 事前事後での他国スカウトとの交流の時間を作り、積極的に議論の場を設ける。
3. RCJ、日本連盟と密に連携し、スカウティングの課題を把握するための議論の場を設ける。
4. 世界スカウトユースフォーラム後、日本のスカウティングを評価したうえで、日本連盟及びRCJに必要な改革案を提示しその実現を働きかける。

【目的・目標設定の背景】

今回の派遣において、私たちは「日本代表団として世界で意見を表明すること」と「世界で得た知見を日本に還元する」という二つの軸をたてた。

日本のスカウトの代表として出席するため、責任をもって日本の意思を世界に表明することは私たちの使命であると考えたことから、一つ目の目標を設定した。また、前回（第13回世界スカウトユースフォーラム）派遣団の提言が殆ど実現されていなかったことから、RCJをはじめとする各関係組織との対話と帰国後の継続的な関わりを重要視し、提言の実現に重きを置いた目的を定め、その実現のための目標を設定した。

※目的及び目標の評価反省は、「[5. 評価・反省－1. 目的・目標について](#)」で行う。

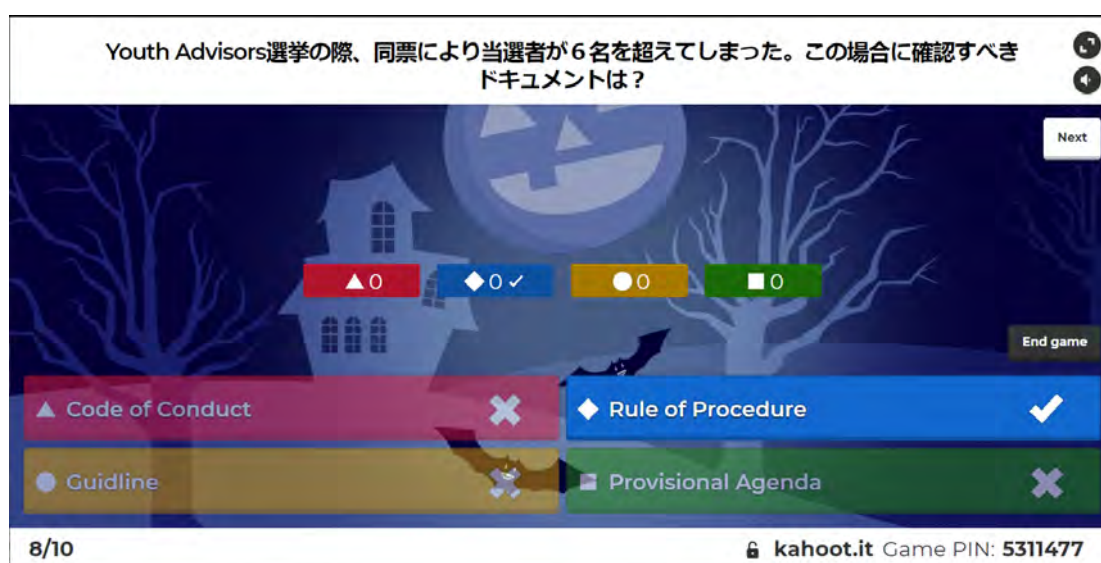
資料: [第13回WSYF日本代表団報告書](#)



2.2 世界フォーラムの概要理解とドキュメントの輪読

2.2.1 世界フォーラムの概要理解

派遣団が組織されたばかりの時期は、メンバー全員が世界フォーラムや世界会議に関してほとんど知識を有していなかった。そのため、前回派遣メンバーの木村氏に概要の説明を依頼したり、世界フォーラムガイドラインをもとにしたクイズを「[Kahoot!](#)」で作成したりして、メンバーの基礎知識向上を図った。



クイズのプレイ画面

資料: [世界フォーラムガイドライン](#)

資料: [世界フォーラムクイズ](#)

2.2.2 ドキュメントの輪読

世界フォーラムに参加するに際しては、事前にアジェンダとして挙げられている各種ドキュメントの読み込みが必須であった。限られた時間の中で効率的に内容を理解するため、メンバーの一人ひとりにドキュメントを割り振り、毎回各人が要約・説明、その後他のメンバーからの質疑応答を行うという輪読形式をとった。残念ながらすべてのドキュメントを扱うことはできなかったが、今回の世界フォーラムで特に重要となる Youth Engagement(青年参画)や Strategy for Scouting(スカウティングのための戦略)などのドキュメントに関しては、十分な時間を取って理解を深めることができたと思われる。

資料: [世界フォーラム・世界会議関連ドキュメント一覧\(英語\)](#)



2.3 広報活動について

2.3.1 派遣団 Facebook

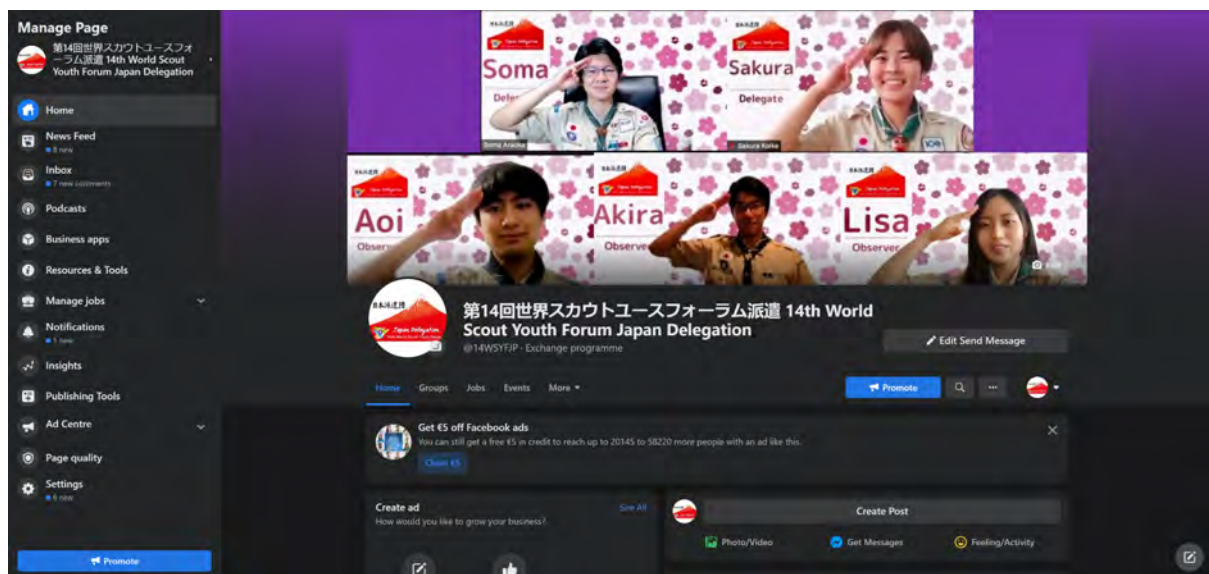
世界フォーラム期間中、前後を通して Facebook を通して広報を行った。Facebook を利用した理由としては、指導者から国内外のスカウトなど幅広い層をターゲットにしていたこと、また、Instagram や Twitter などの他の SNS と比べ文字情報と画像をメインとして用いることができるため、Facebook を選んだ。

具体的には日本派遣団のメンバー紹介や他国の代表派遣団との交流、世界フォーラムや世界会議の1日ごとのサマリーなどを写真を添えて掲載した。国外のスカウトにも読んでもらえるよう、投稿は全て日本語と英語で行った。

世界フォーラム後は報告書作成のためのミーティングの様子を掲載した。加えて、この世界フォーラムに直接的に携わらない指導者やスカウトにも、この世界フォーラムをはじめ世界会議やボーイスカウトの組織について包括的に知ってもらうための投稿をいくつか行った。

実際に Facebook に投稿を始めたのが大会数日前と遅れを取ってしまったが、世界フォーラム開始から約1ヶ月間で投稿のエンゲージメント数は2000を超え、多くのスカウトや指導者の元に情報が届いた。また、Facebook を通じてコンタクトを取り始めた他国派遣団もいたことも踏まえると、Facebook の開設は有効であった。

Facebook に加え、RCJ Web を通して引き続き情報発信を行っていく所存である。



[第14回世界スカウトユースフォーラム日本派遣団 Facebook ページ](#)



2.3.2 派遣団ロゴマーク

日本派遣団としての象徴性を高めるために作成した。デザインテーマは「日本」と「ユース」である。具体的には、日本を代表する浮世絵である「赤富士」をメインに据え、漢字で「日本派遣団」の文字(荒岡作)を配置することで日本らしさを演出した。また、“Japan Delegation”の文字にスク립ト体を採用することで、ユースの若々しさ、力強さ、勢いなどを表現した。さらに、世界フォーラムのロゴマークを配置することで、より派遣団としての象徴性を高めた。加えて、これらのオブジェクトを若干中央寄りに配置することで、円形である Facebook のアイコンなどに使用する際も見切れないことを意識した。

デザインにはオンラインデザインツールの Canva を使用した。これによってデザイン初心者でありながら一定水準のものを作成できた。しかしながら既存の素材の組み合わせが前提となっており、微妙な調整には難があったため、より精密なデザインがしたい場合は専門的なソフトを利用すべきであると考えられる。



日本派遣団ロゴマーク

2.4 他国代表団との交流について

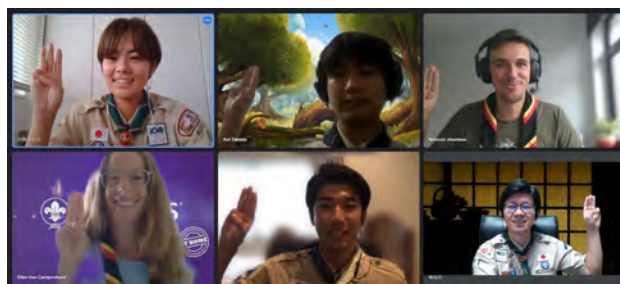
2.4.1 交流国一覧

大会期間前、期間中を通して、アゼルバイジャン、台湾、香港、韓国、ドイツ、インドネシア、ベルギーの代表派遣団と交流を行った。お互いの NSO 組織についてやローバースカウト年代の青年参画、決議案についてなど様々なことについて議論、情報交換をした。

韓国、台湾、香港、アゼルバイジャンからはユースアドバイザーが立候補していた。この4カ国のミーティングではそれぞれの立候補者から意気込みや公約を聞き、質疑応答の時間も取った。ユースアドバイザー選出の投票の際にはミーティング中に聞いた立候補者の話を参考にした。

【写真報告】

ベルギー
8月13日



大韓民国
8月14日



台湾
8月14日





香港
8月14日



インドネシア
8月18日



アゼルバイジャン
8月19日



ドイツ
8月22日





2.4.2 交流ツールについて

世界フォーラムがオンラインで開催されることを踏まえ、オンライン会議において役立つと考えられるコミュニケーションツールを作成することにした。当初考案したのは、派遣団ロゴマーク、バーチャル背景、自己紹介シート、プロフィールサービス（SNS 等のリンクを統合できるサービス）であった。このうち、実際に使用したのは前半3つである。プロフィールサービスに関しては、公式プラットフォームに同様の機能が搭載されていたこともあり、実際に使用することはなかった。以下に実際に使用したツールの詳細を記載する。

(1) バーチャル背景

海外派遣団との Zoom や Google Meet を用いた交流会の際のバーチャル背景として使用するため作成した。デザインの際意識したのは下地に桜を配置し、日本らしさを強調したことである。また、左側には派遣団ロゴ、派遣員の名前、代表・オブザーバーの別を記すことで一目で身分が分かるようにした。

デザインには派遣団ロゴ同様 Canva を使用した。これによるメリット・デメリットは派遣団ロゴと同様である。

海外派遣団からは日本らしさを前面に押し出したデザインに対して好意的な感想をもらうことができた。





(2) Facebook フレーム

今回派遣団が広報で用いる SNS が Facebook であり、各派遣員も Facebook アカウントを所有していることを踏まえ作成した。派遣団ロゴやバーチャル背景と同様、赤富士と桜をベースとしたデザインにした。また、「14th World Scout Youth Forum」の文字には WOSM 等で多用されている紫を、「Japan Delegation」の文字には日本を象徴する色である赤を用いた。

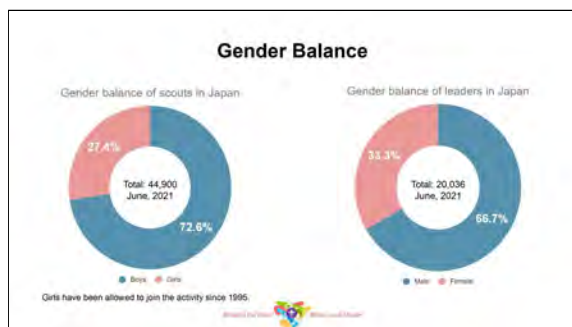
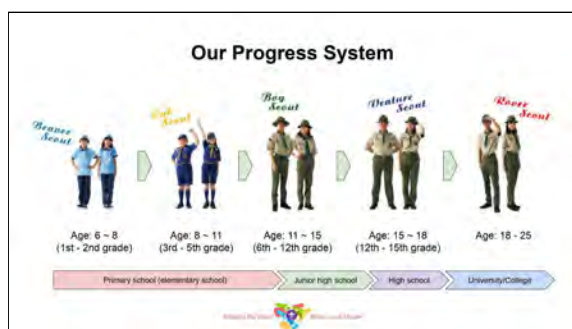
デザインには派遣団ロゴ、バーチャル背景に用いた Canva に加え、Facebook で提供されている Frame Studio を用いた。



(3) 日本のスカウティングに関する紹介スライド

前回派遣の際、海外スカウトに対して日本のスカウティングについて十分な説明をできなかったという反省を踏まえ、ボーイスカウト日本連盟および日本のローバーリングについての解説用のスライドを作成した。これを海外派遣団との交流会の度に使用してプレゼンテーションを行うことで、常に過不足ない内容の説明を円滑に行うことができた。

資料: [日本派遣団による紹介スライド](#)



交流で用いた日本の紹介スライド(抜粋)



3. 派遣当日の動き

3.1 第14回世界スカウトユースフォーラム

3.1.1 概要

2021年8月18日から22日までの5日間行われた。163の加盟組織から713人の参加があった。昨年2020年にエジプトで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1年延期、そしてオンラインでの開催となった。

プログラムは日本時間の16時から翌朝7時まで、コアタイムは21時から1時であった。宣言や決議案等の議論や投票に加え、インターナショナルチームとの交流・ディスカッションやワークショップなど様々なプログラムが行われた。



【ロゴとテーマ】

ロゴ	
テーマ	<i>Bridging the World / Relier notre Monde</i> (世界に橋を掛けよう)

“The theme “Bridging the World” challenged young people and participants to build bridges in their communities and across borders between National Scout Organizations, emphasising the need to work together to put our planet on a path towards peace and sustainability.”

このテーマは、若者と参加者が彼らのコミュニティと加盟組織間の垣根を超えて橋を掛けることを期待し、我々の地球の平和と持続可能性に向けてともに協同することの必要性を強調するものである。

世界フォーラムオフィシャルサイトより



3.1.2 スケジュール

世界フォーラムのプログラムは日本時間の午後4時～午前7時の15時間、その中でコアタイムは日本時間の午後9時～午前1時の4時間であった。コアタイムの他にも様々なライブセッションやワークショップが催された。これらのプログラムではイノベーションやリーダーシップといった世界フォーラムの基本的な要素を学び、他の参加者と交流できた。加えて、同じセッションを複数回行う、プログラムを一部オンデマンドで配信する、など時差が考慮されていた。

		Opening of plenary	Opening of plenary	Opening of plenary	Opening of plenary	Opening of plenary
21:00 - 25:00		開会セッション	イントロダクション * Spiritual moment	イントロダクション * Spiritual moment	イントロダクション * Spiritual moment	イントロダクション * Spiritual moment
			基調講演 * SDGs and world citizenship * Questions and Answers	決議案と修正案について	決議案の修正案と規約改正について	投票セッション * Proposed Amendments to Conference Draft Resolutions Proposed Amendments to Conference Constitutional Amendment
		ユースフォーラムの概要説明	SDGsプロジェクト * youth lead projects	分科会 Breakout sessions	分科会 the proposed Amendments to Conference Draft Resolutions and Constitutional Amendment	
		休憩 + 集合写真	休憩	Conference Draft Resolutions and Constitutional Amendment	休憩	休憩
		ユースアドバイザーによる報告 * Reflections with the World Scout Committee	ユースアドバイザー立候補者 (世界スカウト委員会2021-2024) によるセッション	休憩 ユースアドバイザー (世界スカウト委員会2021-2024) の選出について	投票セッション * Youth Forum Declaration	投票セッション * Proposed Amendments to Conference Draft Resolutions Proposed Amendments to Conference Constitutional Amendment
		インターナショナルチーム及びアンケート調査について	三カ年計画 2021-2024	ユースフォーラムにおける最終宣言について		
		インターナショナルチーム間合わせ * having fun and getting to know each other while discovering more about WOSH	三カ年計画についての分科会	インターナショナルチーム discuss and prepare the Youth Forum Declaration	パーソナルアクションプランの展開 アンケート調査	世界スカウト会議に向けた分科会
25:00 - 26:00		* WOSH decision-making and Youth Forum Declaration				閉会セッション Formal closing of the Youth Forum and celebratory moment to unify the Movement. (Outgoing Youth Forum Chairperson farewell address, symbolic engagement for the future, expressions of gratitude)
		インターナショナルチームミーティング	インターナショナルチームミーティング	インターナショナルチームミーティング	インターナショナルチームミーティング	

資料: [世界フォーラムの全工程のスケジュール\(英語\)](#)



3.1.3 インターナショナルチームについて

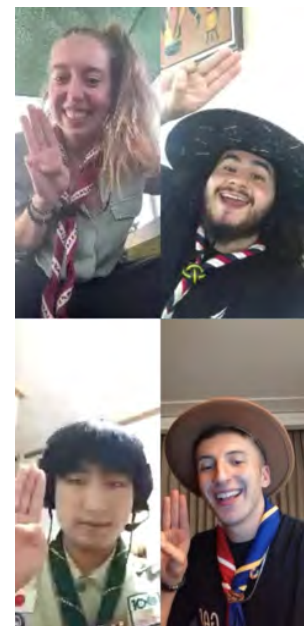
前回の世界フォーラムに引き続き、世界フォーラム中にインターナショナルチームが結成され、世界の同年代スカウトと協力して議論、交流する時間が設けられた。インターナショナルチームの目的としては①同年代との交流(毎日の振り返り／ゲーム)②議論を通じた学び(チーム単位の宣言／修正案の作成と上申)が挙げられる。上記以外にも各チーム内での交流はメンバー間で任意に行うことが可能だった。

インターナショナルチームのメンバーは運営により地域・年齢・ジェンダー等を考慮し、多様性のあるメンバー構成になるように組まれていた。チームごとのコミュニケーションはプラットフォームのビデオチャットが推奨されていたが、接続が悪いこともあり、各チーム Zoom や WhatsApp のビデオ通話等を利用していた。

世界フォーラム宣言文、決議案への修正案作成時には複数のチームが合体する形が取られた。各インターナショナルチームの定員は8名ほどだったが、大体実働参加者は4名ほどであったため、運営の指示による合体以前から合併しているチームもあった。そのため、実際の合体時には3～4チームが母体となった連合チームで活動しているケースもあった。



所属チームメンバー出身国一覧





(1) 初顔合わせとアイスブレイク

世界フォーラム初日の本会前後に顔合わせとアイスブレイク(ゲーム)の時間が設けられた。本会前の時間は任意参加であったが、メンバーが集まり自己紹介等を行い良い雰囲気を各チーム作れていた。本会後はアクティビティが準備されており、脱出ゲームを通して交流が図られた。ゲームではボーイスカウトの知識を問う問題から、体を動かす指令まで様々なものがあり楽しめた。初対面でも、ゲームやテーマを提供されたことで素早く打ち解けることができた。ただ、ゲーム特設ページに繋げるまでの説明が不足しており、結果的にゲームを進めることができないチームも多くあった。なお荒岡と俣野の班は時間内に終わらず、終了後個人で解説に励んだ。



(2) 世界フォーラム宣言文の作成

運営により2チームが合併する形で宣言文の作成が始まった。書類提出まで1日ほど、暫定版への修正には半日ほどと時間の猶予がない中で進める必要があった。チームによって議論したテーマは様々であったが、特に青年参画や世界フォーラムと世界会議を合体させる新イベントの策定に関しては多くの意見が交換された。ユーススカウトの積極的参加が担保されるシステムに対する高い関心が伺えた。実際に宣言文をチームとして提案する際は、規定の書類とフォーマットを用いる必要があり、事前に申請方法を理解していないと対応するのは難しかった。

資料: [宣言文提案書類の例](#)

(3) 決議案に対する修正案の作成

宣言文の作成同様、短い時間と決められた書式を守って提出する必要があった。翌週の世界会議において実際に決議される文章に対して修正案を出すということで、宣言文について議論した際よりも更に熱を帯びた議論がされた。事前に派遣団内で修正案の議論をしていたメンバーは、その内容を議論の出発点としてスムーズに意見交換行っていた。また国や地域に





よって重要視しているテーマ、トピックが異なり新たな気づきを多く得た。

(4) その他

インターナショナルチーム内に限らず、世界フォーラム中の議論やその他活動において、言語の壁やネットワーク回線の弱さによって意思疎通がうまくできない場面が散見された。言語面では、文面での意見表明や Google Meet の字幕機能、母国語が共通のメンバーによるサポート等、各々自主的に全ての参加者が意見を出せるように配慮していた。世界フォーラム宣言文や修正案において、標準語である英語とフランス語が同等に公文書等で用いられるようする案が採択される等、まだ乗り越える壁は存在している。また今後インターネットを利用した活動が普及していく中で、言語だけでなく各国、各スカウトの置かれている環境差等をできる限り是正し、全てのスカウトに橋が繋がるように努力を続ける必要がある。





3.1.4 オンラインでの開催について

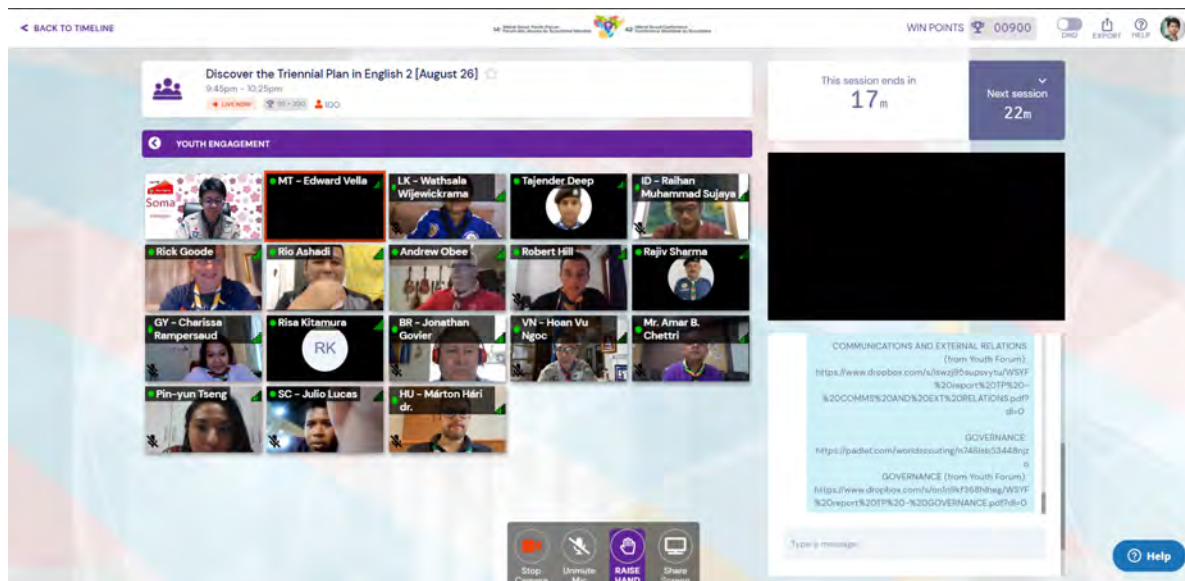
今回の世界フォーラム及び世界会議は、その全行程がオンラインによって行われた。そのため、参加者である我々は、運営側が用意したツールの使い方をマスターすることはもちろん、必要に応じてメンバー同士や他国のスカウトと意思疎通をする方法を決める必要があった。

(1) オンラインプラットフォーム

世界フォーラム・世界会議期間中は、共通のオンラインプラットフォームが用意され、各種セッションはこのプラットフォームを通じて配信された。世界フォーラム参加者（代表・オブザーバー）には事前にプラットフォームにアクセスするための登録フォームが送られ、メールアドレスとパスワードを設定して当日に備えた。

プラットフォーム上には、各種セッションの情報が日毎に掲載され、また Meeting Hub で世界中の参加者の友だち追加やチャット（テキスト・映像）ができた。

公式プラットフォームは、世界フォーラム終了後一定期間を過ぎるとアクセス不能になるが、セッション中に記入した Note と Contact Info はエクスポートできた。

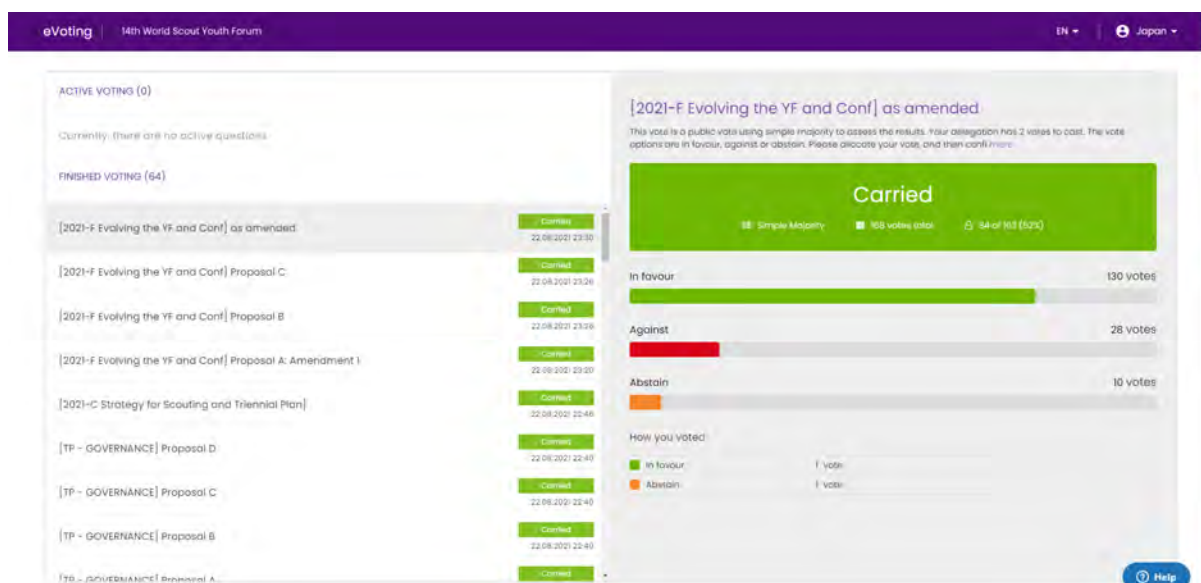


プラットフォームを使ったブレイクアウトセッションの様子



(2) E-Votingシステム

決議の際の投票は、すべて E-Voting システムを通じて行われた。E-Voting にアクセスできるのは、各国の首席代表 (Head of Delegation) のみであり、各議案に対し、2票ずつ投票権があった。投票は、賛成、反対、棄権が選択でき、2票とも同じか、1票ずつ別々に投じることができた。議長の“The voting is now open”の合図とともに、画面上に表示された制限時間内に投票を行う。制限時間を過ぎた場合は無投票扱いとなる。

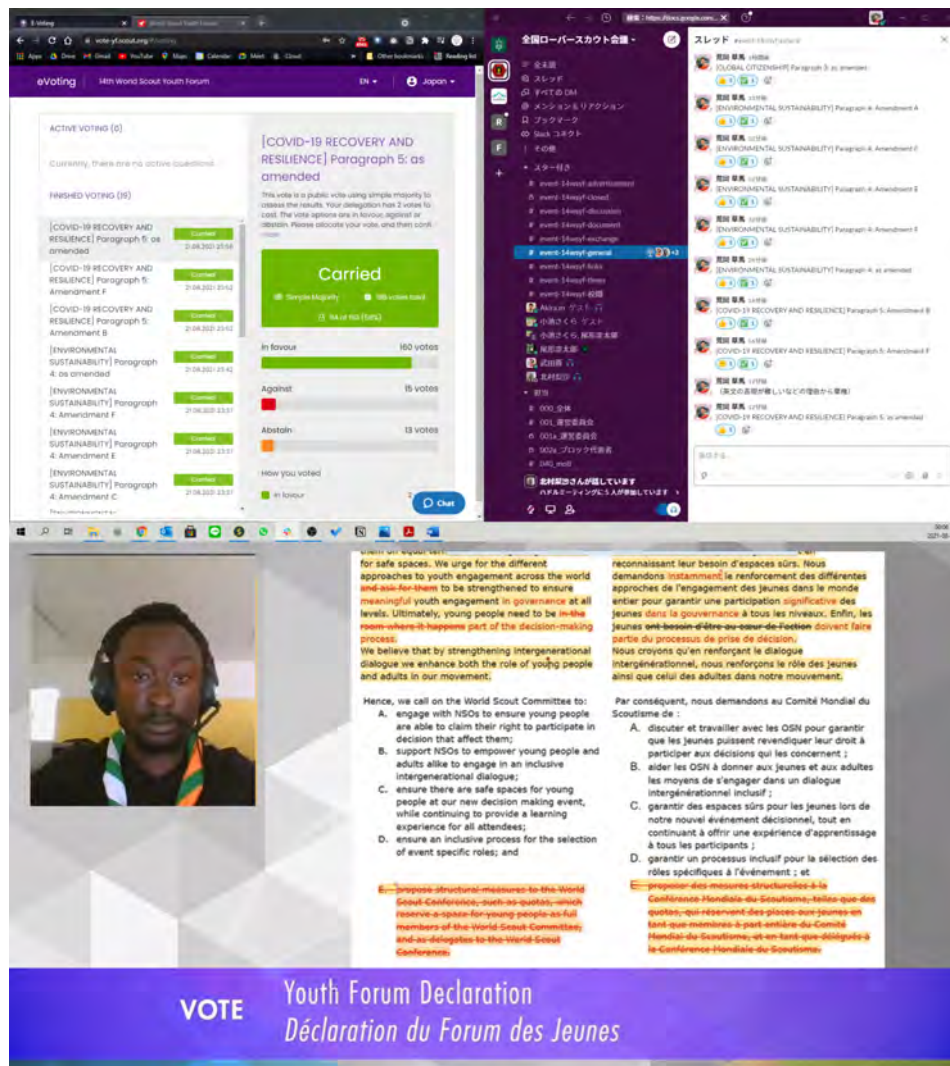


E-voting(電子投票)システムの画面

(3) 派遣メンバー同士のコミュニケーション

世界フォーラム期間中、当然のことながら日本派遣団のメンバーはそれぞれの自宅から参加した。¹ 期間中のコミュニケーションには、主に Slack と Google Meet のツールを利用した。Slack は、日本連盟と RCJ のものそれぞれに参加し、日本連盟のものは事務局とのやり取り、RCJ のものはメンバー同士の連絡や情報共有に利用した。RCJ の Slack 上では、用途に応じて複数のチャンネルを設け、情報にアクセスしやすいように工夫した。また、世界フォーラム期間中は、Slack のハドル機能を使って、音声によるコミュニケーションを図った。Meet のように部屋を立てる必要もなく、誰が参加しているのかも分かるという点で、利便性が高かった。

¹ 一方で、他国派遣団は1箇所に集合しているところが多かった印象。韓国、アメリカ、ドイツ、インドネシア等。フランスは屋外にテーブルを置いて参加していた。また、ドイツ・オーストリア・スイスなど、同じ言語圏にある国同士は対面で交流していた。



修正案決議の際の PC 画面。配信画面(下)、Slack(右上)、電子投票画面(左上)

【Slack上に設けたチャンネル一覧】

- # event-14wsyf-general: ミーティングの招集など全体連絡用
- # event-14wsyf-closed: 個人情報共有など、共有範囲を限定すべき話題用
- # event-14wsyf-exchange: 外国派遣団との交流に関する話題用
- # event-14wsyf-discussion: 世界フォーラムに関する議論トピックの募集用
- # event-14wsyf-advertisement: 広報一般に関する話題用
- # event-14wsyf-校閲: Facebookに投稿する文章の校閲用
- # event-14wsyf-links: 世界フォーラム期間中、頻繁にアクセスするリンク用
- # event-14wsyf-reports: 世界フォーラム終了後の報告書作成に関する話題用
- # event-14wsyf-times: 雑談用



3.1.5 ユースアドバイザーの選出

世界フォーラムの目玉の一つが、「ユースアドバイザー」(通称「YA」)の選出である。ユースアドバイザーは、青年の代表として世界スカウト委員会に助言を行う権限を持つ重要な役職である。そのため、選出にあたっては、立候補者の公約はもちろんのこと、その経歴や人となり等も判断の材料となる。加えて、ユースアドバイザーは全世界のユースを代表する存在であるため、地域性やジェンダーバランスなども考慮に入れる必要がある。

資料: [世界スカウトユースフォーラムガイドライン\(英語\)](#)

(1) 候補者

ユースアドバイザーの定員は6名で、今回は6つ地域から18名の立候補者があった。

地域	立候補者氏名(国名) ※数字は年齢
アジア太平洋	・Kumar Ritesh AGARWAL(インド)24 ・Mohamed FAUZOON(モルディブ)25 ・Yoobinnara KIM(大韓民国)26 ・David Yen-Cheng LAI(台湾)21 ・Addison NG Koon-tat(香港)20 ・Ahmad Syauqi TAUFIQ(マレーシア)25
アラブ	・Ahmed AL-KAMYANI(オマーン)24 ・Amina AMRANE(アルジェリア)22 ・Zainab BENABDELKRIM-FILALI(モロッコ)27 ・Alhassan SOLTAN(エジプト)24
アフリカ	・Maman Lamine SOUMANA IDE ISSA(ニジェール)27
アメリカ	・Abril ALONSO SGUILLA(ウルグアイ)24 ・Reese MEDINA(ベリーズ)25 ・Jose Ernesto MENDOZA GUEVARA(メキシコ)22
ヨーロッパ	・Evan O'CONNELL(アイルランド)18 ・Andreea-Alexandra SCRIOSTEANU(ルーマニア)19 ・Melissa WILM SENNA PINTO(ブラジル)24
ユーラシア	・Fatima ALIYEVA(アゼルバイジャン)21

資料: [ユースアドバイザー候補者の概要\(英語\)](#)



(2) 投票と結果

各派遣団にはそれぞれ12票(2票×6名分)が割り当てられた。与えられた12票は、2票ずつ支持する候補者に割り振ることもできるし、1票単位に分割して割り振ることもできる。投票は電子投票で行われた。2日目のユースアドバイザー候補者の紹介の後から投票可能とできるようになり、3日目の21時(本セッション開始時)に投票が締め切られた。

投票の際には、以下の点を考慮した:

- ・男女比
- ・地域バランス
- ・年齢(若すぎず老いすぎず)
- ・経歴(特に地域レベル、世界レベルの経験)
- ・個別にコンタクトしてきたかどうか＝行動力
- ・プレゼンの際の人柄、話し方等

【選出されたユースアドバイザー】

Youth Advisors to the WSC 2021-2024



Fatima Aliyeva
Azerbaijan Azerbaïdjan



Yoobinnara Kim
Republic of Korea République de Corée



Reese Medina
Belize Belize



Alhassan Soltan
Egypt Égypte



Maman Lamine Ide Issa
Niger Niger



Melissa Wilm Senna Pinto
Brazil Brésil



3.1.6 最終宣言

第14回世界スカウトユースフォーラム宣言 Declaration of the 14th World Scout Youth Forum

スカウト運動における若者であり、代表とオブザーバーである私たちは、2021年8月18日から22日まで、さらなる力をつけ、刺激を受け、またスカウト活動及び社会で使える意思決定のためのスキルを身につけることを目的に、第14回世界スカウトユースフォーラムに集結した。

この宣言を通して、私たちは：

- スカウト活動における若者の声を集約する。
- 困難を極めている時期にあっても、私たちの運動のための意思決定プロセスに参加する権利を主張するために、オンラインで集まった。
- 世界中の若者が直面している気候変動とコンフリクト²による不安定さを認識する。
- スカウト運動の発展に活気を与え、導くために、今日の若者メンバーが最も大切にしているビジョン、願い、決定、原則を共有する。
- フォーラムのセッション内で行われた議論、対話、討論の概要を記録に残す。
- 史上最大規模である163の加盟組織から299名の代表者がこのオンラインフォーラムに参加したことを祝う。
- 58%（713人の代表者およびオブザーバーのうち418人）が、このフォーラムの翌週に開催される世界スカウト会議にも参加するという事実に着目する。
- このような世界的な意思決定プロセスに参加する若者の数が増え続けることに期待を表明する。
- 拘束力はないものの、この宣言は世界中のスカウトの意見を代表するものであり、それゆえに十分な注意と考慮に値することを認識する。
- アクティブシティズンであることは、本運動が推進するビジョンと価値観の中核をなすものであり、本宣言はそのビジョンを表明することを強調する。

課題多き世界を形成する若者たち

² 紛争、衝突、対立など。



1. 青年のイノベーションについて

私たちは、若者のイノベーションは世界をより良い方向へと変えていくことのできるものだと思っています。**スカウティング**が提供するノンフォーマル教育³のプラットフォームと**エンパワーメント**⁴は、青少年がこの可能性を引き出すことを支援することができます。それゆえ、私たちは世界スカウト委員会に次のことを求めます。

- A. スカウティングの中で、イノベーションを起こすためのインスピレーションと支援を青少年に提供すること。
- B. 青少年のアイデアやイノベーションのための、成人やコミュニティ、**仲間**からの支援を確立すること。そして、
- C. 青少年の可能性を引き出すために、経験、時間、資源、教育等の不足といった事実上の障壁を軽減すること。

2. 青少年のリーダーシップ能力の開発について

私たちは、若者のリーダーシップ能力の開発が、スカウト運動の**目的**の中核をなすものであると確信しています。したがって、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. 青少年が彼らの所属する組織内において、指導的役割を担い、それが様々な経験レベルに適合するように育成・採用することを、NSOに対して奨励すること。
- B. 青少年のリーダーシップが尊重、快く支援され、スカウト運動のあらゆる段階でそれが主流となる文化を育むこと。
- C. 青少年が、この運動のあらゆるレベルにおいて成人指導者と同等の権限を持つ立場で活躍させるために、組織のあらゆるレベルでリーダーシップのスキルと経験を青少年が身につける機会の提供を確実にすること。

³ 学校教育のような公式の教育(フォーマル教育)に対する語。

⁴ 力を与える、能力を高める等の意。



3. 若い地球市民の育成について

私たちは、地球市民であることはスカウティングのアイデンティティの中核であり、これはノンフォーマル教育とスカウティングの冒険を通じて成し遂げることができると信じています。したがって、私たちは世界スカウト委員会に次のことを求めます。

- A. 彼らの参加を阻む事実上の障害(経済的、言語的障壁等)を軽減するという特別な配慮をもって、青少年が地域をまたいだ架け橋を構築するための異文化交流の機会を促進する。
- B. NSOに対し、彼らのユースプログラムに地球市民教育を取り入れるよう奨励する。

4. 環境持続可能性

私たちは、現在も進行中の気候危機が今世紀最大の課題であり、今日の青少年が生涯を通じてこの問題に向きあわなければならないということを認識しています。したがって、私たちは世界スカウト委員会に次のことを求めます。

- A. 2033年の世界スカウト会議までに、私たちの幅広い運動、一人ひとりの生活、そして地域社会の中で、カーボンニュートラル(気候中立)⁵に向けて取り組むよう、スカウト運動に働きかけること。
- B. 加盟員が気候危機を軽減するために地域で行動することをエンパワーすること。
- C. 気候保護と人道的対応の方針を改善するため、他のNGOとのパートナーシップを模索し、カーボンニュートラルに取り組むこと。
- D. ジャンボリーや世界会議を含む大規模なスカウトイベントが環境に与える影響を評価するためのフレームワークを開発すること。
- E. 2033年までに、世界のスカウトイベントの環境への影響を相殺(中立化)すること。
- F. 各NSOのプログラム(Scouts for SDGプログラムなどの地域奉仕プロジェクトへの構成員の動員を含む)が、気候中立および持続可能な開発目標(SDGs)との密接な連携を確実にすること。
- G. NSOと協力して、意欲的／野心的な／挑戦的な持続可能性目標を設定し、達成すること。
- H. NSOによる、自らの環境に対する取り組み(足跡)⁶の報告と考察を奨励すること。

5. COVID-19の復興とWOSMの復興について

⁵ 排出する温室効果ガスを、吸収量やその他の削減量を差し引いて、実質ゼロにするという環境保護への取り組み

⁶ 一定期間における活動の中でどれだけの二酸化炭素を排出したかの軌跡。



私たちは、COVID-19のパンデミックが私たちの日常生活や経済的実態に大きな影響を与え、世界中で命が失われたことを認識しています。そのため、世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. 世界の復興プロセスを加速させるために、NSOが他のパンデミックへの対応事例から学びやすくすること。
- B. 技術的な資産に投資し、高品質のデジタル体験を提供するために必要な財政的、技術的支援をNSOに提供すること。
- C. COVID-19の国際的な蔓延の結果としてコミュニティが直面した様々な課題に対するNSOの取り組みを認識し、支援すること。
- D. これまで以上に必要とされているアウトドア・アドベンチャー（高度な野外活動）の価値提案を強調すること。
- E. 収入源を加盟登録費以外にも拡充すること。
- F. スカウト全体数における犠牲者だけでなく、残りのスカウトのメンタルヘルス（精神的な健康）の被害についても認識する。

スカウティングを形成する若者たち

6. 青年参画

青年参画について、私たちは、安全な空間（セーフスペース）⁷の必要性を認識しつつ、自分たちに影響を与える決定に対等に関与する権利が若者にはあると考えています。私たちは、あらゆるレベルの組織運営において有意義な青年参画を確実なものとするために、世界各地の青年参画に対するさまざまなアプローチが強化されることを強く求めます。最終的には、若者は意思決定プロセスに参加する必要があります。

私たちは、世代間の対話を強化することで、私たちの運動における若者と成人の両方の役割を高めることができると信じています。

ですから、私たちは世界スカウト委員会に次のことを求めます。

- A. 若者が、自分たちに影響を与える意思決定に参加する権利を主張できるよう、NSOと協力すること。
- B. NSOが、若者と成人が同様に、インクルーシブな⁸世代間の対話に参加できるように支援すること。

⁷ 教育現場等において、暴力、いやがらせ、ヘイトスピーチ等が排除された安全な空間のこと。

⁸ 包含される、排除されないの意。



- C. 新しい意思決定イベント⁹において、若者にとって安全な空間を確保すると同時に、すべての参加者に学びのための体験の場を提供し続けること。
- D. イベント特有の役割を選択するためのインクルーシブなプロセスを確保する。
- E. 若者が世界スカウト委員会の正式メンバーとして投票権を持つことを保障するために、世界スカウト会議に構造的措置を提案する（これには世界スカウト委員会における一時的な年齢による規定¹⁰を含むが、これに限定されない）。
- F. 世界スカウト会議への代表団に最低限の割合の若者が適切に含まれるようにするための方策を提案し、代表団内の若者の割合を高めるようNSOを支援すること。
- G. 世界スカウト会議への代表団に最低限の割合の若者が適切に含まれるようにするための方策を提案し、構造的な割当制や連帯金制度等を通じるなどして、代表団内の若者の割合を高めるようNSOを支援すること。¹¹

7. 教育法

教育法に関して、私たちは若者のノンフォーマル教育を受ける権利を強く支持します。私たちは、ノンフォーマル教育の提供を強化するために、メンバーを支援することを支持します。私たちは、世界中のスカウトにオンラインサービスを提供し続けることを支持します。

それゆえ、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. すべてのスカウトが世界的なプログラムの恩恵を受けられるように、e-ラーニング・プラットフォーム¹²をさらに発展させる。
- B. セーフ・フロム・ハームや教育的な新施策におけるメンタルヘルス（精神の健康）をより重視し、メンタルヘルスを推奨するために若者をエンパワーする。
- C. レジリエンス（強靭さ）を構築するため有事の際の対策に焦点を当てたリソースを強化し、NSOレベルの発展と維持を促進すること。
- D. 平和におけるリーダーシッププログラム¹³に投資し、以下に取り組むこと。
 - a. 平和と対話の取り組みを支援するためにパートナーと連携する。
 - b. 国連の「若者と平和、安全保障のアジェンダ」に取り組む。

⁹ 今回の世界スカウト会議で採択された、世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議が統合された新しいイベント。

¹⁰ 世界スカウト委員会の一部の委員は、一定年齢以下でなければならないとする規定。

¹¹ FとGは内容が重複しているが、これは、2つの異なる修正案が提出されたが、どちらも投票によって可決されたため。

¹² オンライン上で教育を受けることのできるサービスやツール。

¹³



8. ダイバーシティ&インクルージョン¹⁴

ダイバーシティ&インクルージョンに関して、私たちはスカウティングがすべての人に開かれた活動であることをより強固なものにします。私たちは多様性を受け入れます。私たちは、私たちの運動の価値に基づく性質を強調しながら、一人ひとりがユニークな存在であり、多様な社会の一員であることを認識しています。私たちは、すべてのNSOが、性別、性的指向、人種、宗教、信条にかかわらず、メンバーのために安全な空間を作ることを推奨します。

それゆえ、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. 各国のダイバーシティ&インクルージョン活動を発展させるうえで、NSOを支援すること。
- B. 世界[スカウト]イベントで、参加者のニーズに応える安全な空間を作ること。
- C. 困難な社会的・経済的背景を持つより多くの若者が、世界のスカウトイベントや新施策に参加できるよう支援すること。
- D. 運営や意思決定機関におけるジェンダー・バランス¹⁵に向けた努力し続けること。
- E. NSOの青少年プログラムに男女平等に関する議論を盛り込む努力を継続・強化すること。
- F. スカウティングが障害者にとってアクセス可能でかつ適したものであることを確実にするためにNSOを支援すること。

9. 社会的影響

社会的影響に関して、私たちは、スカウティングが世界中の何百万ものコミュニティにポジティブな影響を与えているにもかかわらず、その影響を小さな規模でしか測れていないと考えています。私たちは、スカウティングが世界に与える影響を評価できるように、すべてのNSOが社会的影響の研究に取り組むことを奨励します。

そこで、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. 社会的影響に関する研究へのNSOのアクセスを容易にすること。
- B. アカデミア¹⁶や専門家と協力して、スカウティングが世界に与える影響を評価すること。
- C. NSOが最も傷つきやすい文脈(弱い立場にある人々)にスカウティングを提供することを支援すること。
- D. スカウトが地域社会で積極的に活動し、環境保護活動に取り組み、世界規模で調整することができるようエンパワーすること。

¹⁴ 多様性と包括。すべての人が性別や性的指向、人種や障害の有無等にかかわらず、多様性を尊重され、排除されないという考え方。

¹⁵ コミュニティ内における男女の構成割合。

¹⁶ 学問の世界、学術機関。



10. コミュニケーションと外部との連携

コミュニケーションと外部連携に関して、私たちは、スカウティングのアイデンティティに忠実でありながら、パートナーシップのポートフォリオを拡大することを支持します。加えて、私たちはインクルーシブなコミュニケーションを支持します。

それゆえ、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. 選出された役員とNSO間のコミュニケーションを継続すること。
- B. Big 6 Youth Organisations¹⁷のパートナー、特にガールスカウトとの密接な協力関係を継続すること。
- C. ポリシー文書の文言を平易なものにし、アクセスしやすくすること。
- D. NSOとWOSMのより緊密な連携を促進すること。
- E. 青年、平和と安全保障、気候への取り組み、ダイバーシティ&インクルージョンなど、社会的進展のための対外的なブランドを強化すること。
- F. スカウティングにとって重要な問題に関するグローバルな政策議論を推進するために、青年代表¹⁸を引き続き活用すること。

11. 組織運営

組織運営に関して、私たちは、世界のスカウティングの自ら進んで行動する構造を継続的に適応させ、向上された柔軟性等、今日の自発行動における動向を反映させることを支持します。そのため、私たちは世界スカウト委員会に以下のことを求めます。

- A. WOSMの両公用語¹⁹が同等の地位にあること、そしてより良い組織運営と包括的な民主的意思決定のためにその重要性を認識すること。
- B. 青年参画が教育法に限定されることなく、私たちの組織の管理と運営の全体で主流となることを確実なものにすること。
- C. 持続可能性に焦点を当てたWOSMのサービスを構築すること。
- D. より多くのNSOがWOSMサービスの恩恵を受けられるよう、WOSMサービスの利用可能性を高めること。

まとめ

私たちは、世界スカウト機構が、このフォーラムや世界スカウト会議に出席できる者だけでなく、この運動のすべての若者に奉仕することを奨励します。

¹⁷ 世界レベルの青年のための6大組織。 <https://bigsix.org/>

¹⁸

¹⁹ WOSMでは、英語とフランス語が公用語とされている。



私たちは、スカウト運動の世界組織が、国際的なイベントに参加できる人たちだけでなく、すべての年齢と経歴のスカウトに奉仕することを奨励する。

私たちは、本宣言の声明が、多様な背景と国籍のスカウトで構成された国際チーム²⁰での議論・検討を経て、加盟組織を代表する若者たちによって準備されたという事実に着目する。したがって、この宣言は、参加者全体のアイデアと意見を十分に表すものである。

私たちは、今回の世界スカウトユースフォーラムが、加盟組織の数においても青少年の数においても最大であることを念頭に置き、世界スカウト会議、世界スカウト委員会、すべての加盟組織、世界スカウト委員会へのユースアドバイザーに対し、第14回世界スカウトユースフォーラム最終宣言を受け入れ、世界中の青少年の意見やニーズを尊重することを要請する。

資料: [第14回世界スカウトユースフォーラム最終宣言\(対訳表\)](#)

²⁰ フォーラム期間中は、複数の各国からの参加者を数名のグループに分けた国際チーム(International Team)が組織された。国際チームは運営により地域・年齢・ジェンダー等を考慮し、多様性のあるメンバー構成になるように組まれていた。最終宣言の修正案は、国際チームからの提案のみ提出できた。

3.1.7 世界スカウト会議決議の修正案

世界会議決議案に対して、インターナショナルチームによって複数の修正案が提案された。日本派遣団は今回派遣団内部で全員による事前投票を行い、その結果を踏まえて派遣団に与えられた2票の投票先を決定した。ここでは、世界フォーラムで提出された修正案の概要の紹介と、それに対する日本派遣団の判断を示すこととする。決議案の原文および世界会議での最終的な採択結果については、別紙を参照されたい。

資料: [日本派遣団の投票内容記録表](#)

資料: [世界会議決議案のフォーラム修正案 日英対訳表\(更新中\)](#)

資料: [世界会議決議 世界フォーラム修正案と採択結果の対応表\(英語\)](#)

(1)世界3ヵ年計画2021-2024の目標

青年参画 YOUTH ENGAGEMENT

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	地域や NSO に対し、若者がリーダーシップスキルを身につけるための地域リーダーシッププログラムを策定し、成人を含めた世代間対話を支援するよう奨励する。	可決	賛成
修正案B [追加]	若者が、世界スカウト機構(WOSM)、地域、 NSO 及びコミュニティ内の意思決定プロセスに参加することができるよう、 NSO を支援する。	可決	賛成
修正案C [追加]	NSO が、有意義な青年の参加を確かなものにするための効果的なメカニズムを開発することを支援する。	可決	賛成
修正案D [追加]	すべての若者が、年齢、性別、性的指向、社会的背景、障害の有無にかかわらず、スカウティングにおける意思決定に平等に参加できることを保証する。	可決	賛成
修正案E [追加]	地域社会、国、[WOSMの]地域、世界レベルの異なる社会的・政治的文脈における、若者の有意義な参画を促進する。	可決	賛成
修正案F [追加]	あらゆるレベルの意思決定において若者が十分に参加することを妨げている、組織的・構造的な課題を対象とした長期的な変革に取り組むため、 GSAT における青年参画の観点を改善する。	可決	賛成

教育法 EDUCATION METHODS

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	デジタルエンゲージメントを含む新しい方法でスカウティングを体験するために、若者、「スカウト運動における成人 (Adults in Scouting)」、NSO が利用できる技術的な機会の拡大と開発を継続する。 無料・オープンソースのプラットフォームを活用して、スカウトのためのデジタル空間の利用を継続する。	可決	棄権 ²¹
修正案B [追加] [修正]	すべての世界スカウトイベントを見直し、革新し、NSO の強い関与を得て、環境的に持続可能でありながら、すべての若者のアクセス、アクセス性、インパクト、包含、参加のために設計、実施されるようにする。 - 世界や地域のスカウトイベントの形式を費用対効果の観点から見直す。 - 世界スカウトイベントのフォーマットを見直し、アクセシビリティを向上させる。 - 世界スカウトイベントが若者の個人的な成長に与える影響を評価する。 - 環境的に持続可能な世界スカウトイベントの設計と実施を見直し、改善することで、環境的に持続可能なものに強化する。 - すべての若者の参加と、それがスカウトメンバーに与えるポジティブな影響を中心に、革新的な取り組みを行う。	可決	賛成

ダイバーシティ&インクルージョン DIVERSITY & INCLUSION

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [修正]	国内、地域、国際レベルでスカウト運動としての地位を評価し、 会員の多様性と包括性の観点からスカウト運動としての地位を理解し、より多様で包括的な運動になるために改善すべき行動分野を特定する。	可決	賛成
修正案B [追加]	地域社会の構成要素を反映した 青少年および成人 のボランティアの参加を積極的に求め、地域社会の多様性を反映した包括的な青少年プログラムを提供する能力と自信を持つために必要な異文化間のトレーニングを確保する。	可決	賛成

²¹ 文中の“open source”の意味合いが十分に理解できず、賛否の判断を致しかねたため、全員の同意のもとで棄権に投じた。

修正案C [修正]	スカウト運動のすべてのレベルと構造において、ジェンダー平等とジェンダー主流化を男女共同参画を段階的に実施するなど、活動全体を通して男女共同参画を強化する主流にする。	可決	棄権 ²²
修正案D [追加]	障害、心理的障害、メンタルヘルスを、ダイバーシティとインクルージョンの重要な構成要素として含め、アクセシビリティと参加のための体系的な障壁を軽減するために努力する。	可決	賛成

社会的影響 SOCIAL IMPACT

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [修正]	NSO が人道的活動における責任あるアクターとなるよう支援することで、人道的災害が若者に与える影響を軽減する。 NSO が人道的活動における責任あるアクターとなり、災害が若者に与える影響を軽減できるよう支援する。	可決	賛成
修正案B [追加]	NSO と世界スカウトが、NSO の青少年プログラムの効果と影響を監視・評価することを支援するツールを開発し、 青少年プログラムの改善において NSO を効果的に支援する方法に関する戦略を策定する。	可決	賛成

コミュニケーションおよび対外関係 COMMUNICATIONS & EXTERNAL RELATIONS

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	WOSM のブランディングとメッセージングを見直し、刷新することで、ビジュアルブランド、メッセージング、デジタル使用のための適応を通して、教育的な若者運動のリーダーとして、 また子どもと若者の権利の擁護者としての地位を確立する。	可決	賛成
修正案B [追加]	新規および既存のパートナーシップを運用し、 特に社会開発と気候変動への対応に焦点を当てた パートナーシップを開発・管理する NSO を支援することにより、スカウト運動の利益のために WOSM の戦略的パートナーシップを普及・活性化させる。	可決	賛成

ガバナンス GOVERNANCE

²² ・”Mainstream gender equality”という語句に違和感を覚えた

・修正前の文面が好ましい

・内容自体には反対しない

ということを考慮し、最終的に棄権に投じた。

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [修正]	気候変動がガバナンスに与える影響を考慮しつつ、イノベーションと強固な変化、危機、リスク管理を通じて、NSOが変化する現実の中で成功できるようにし、組織の回復力を支援する。	可決	賛成
修正案B [追加]	「セーフ・フロム・ハーム」に関する問題、男女平等、青少年のエンパワメント、環境意識、透明性に対処するための積極的な管理と手続きを含む、世界スカウトの組織とその関連機関における独自の方針と倫理基準のロールモデルとなる。	可決	賛成
修正案C [追加]	WOSM 憲章で定められているように、両方の公用語の間で同等の地位を確保し、より多くの NSO が積極的に参加できるように、資料や情報を両方の言語で同時に提供しよう努力する。	可決	賛成
修正案D [追加]	Better World Framework Service の下での環境維持に関する取り組みを継続・強化し、環境維持のための独立した WOSM Service の開発を検討する。	可決	賛成

(2) 2021-D スカウト活動におけるセーフ・フロム・ハームの強化

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	すべての加盟国連盟に以下のことを要請する。 若者の安全と心の健康、そして彼らの成長がスカウトの使命の中心であることを認識し、最優先事項として「セーフ・フロム・ハーム」の問題に取り組むこと。	可決	賛成



(3) 2021-F 世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議の発展

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	新イベントへの若者の参加を確保するため、各 NSO の代表団のうち一定の割合を 30歳以下 とする枠を設ける。この枠は一過性のものであり、 3年ごと に再評価されるようにすること。	可決	反対 ²³
修正案B [追加]	若者が新しいイベントに参加できるよう、インセンティブの使用を検討すること。	可決	賛成
修正案C [追加]	イベントに物理的に参加していない参加者を巻き込むための規定を設けること。	可決	賛成

(4) 2021-G ユースアドバイザー制度と意思決定への青年参画

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	世界スカウト委員会の投票権を持つメンバーの 3分の1以上 が、選出時に 18歳から26歳 であるという措置を導入すること。	可決	賛成
修正案B [追加]	若者が世界スカウト委員会の投票権を持ち、世界スカウト会議の代表者となることを保証し、組織のすべてのレベルで若者の参加を優先することを再確認するために、 3年後 にこの施策を評価すること。	可決	賛成
修正案C [追加]	世界スカウト委員会の投票権を持つメンバーの数を増やすための行動を起こすこと。	否決	反対 ²⁴
修正案D [追加]	世界スカウト委員会、加盟団体、ユースアドバイザーが以下の事項を探求することを要請する。 ○ 若者の参加は、遠い野心的な目標ではなく、デフォルトであり、規範となるものであること。 ○ WOSM のすべての層において、運動の若者がすべての問題に関与し、声を上げることを強調すること。 ○ WOSM のガバナンスの中核となる原則を浸透させるために、言葉の力を意識すること。 ○ 若者の参加に関するすべてのコミュニケーション、文	可決	賛成

²³ Quota制度はあるものの、数字自体はdefined percentage(未確定)ということで、30%以下にできてしまうことを考慮し、最終的に反対に投じた。

²⁴ WSCのメンバーを18人に増やすことが意思決定に悪影響を及ぼす可能性を考慮し、全員の同意のもとで反対に投じた。

	書、報告書において、よりポジティブな語りかけを行うこと。 ○ この物語がグローバル、リージョナル、ナショナルレベルを含む WOSM のすべてのレベルで規範となっていくこと。 ○ 「クォータ」、「投票権を持つ若者の存在を確保する」、「一定数の議席を確保する」といった現状維持の用語の使用を避けること ○ 世界スカウト委員会の投票権を持つメンバーの世代間バランスをとるために、高齢の投票権を持つメンバーの存在を制限することで、運動のあらゆるレベルで世代間の対話を実現すること。		
--	--	--	--

(5)2021-H WOSM の環境持続性の強化

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	世界スカウト委員会に、気候危機との戦いにおけるロールモデルとなることを求める。	可決	賛成
修正案B [追加]	加盟国連盟に以下のことを要求する ● 気候変動を緩和するための地域活動を率先して行い、自然災害への対応に積極的に取り組むよう、メンバーに力を与えること。	可決	賛成
修正案C [追加]	世界スカウト委員会と世界スカウト事務局に以下のことを要請する。 ● 学界や産業界の専門家に相談し、持続可能性に関するイニシアチブ、ポリシー、教育方法を策定すること。 ● 学界や業界の専門家と協議しながら、現在の WOSM のサステナビリティに関するイニシアチブやポリシーを見直し、それらがエビデンスに基づいていることを確認すること。 ● 地域の課題を考慮して、すべての WOSM イベントのための環境維持基準を作成すること。 ● SDGs で示されている環境の持続可能性を、スカウトの次期戦略を策定する際の重要な枠組みとして設定すること。	可決	賛成
修正案D [追加]	世界および地域レベルでの世界スカウトの活動が環境に与える影響を監視するシステムを構築し、そのための手段を奨励すること。	可決	賛成



修正案E [追加]	私たちの活動による環境への影響を軽減するための優良事例を集め、 WOSM の各地域で共有すること。	可決	賛成
修正案F [追加]	遅くとも 2033 年の第 46 回世界スカウト会議までに WOSM の運営をカーボンニュートラルにすることで、環境持続性の実践を大幅に強化することを目指し、会議文書 12 に概説されているように、明確な行動計画と測定可能な目標を伴う WOSM の気候影響戦略を策定すること。	可決	賛成
修正案G [追加]	上記の施策を支援するため、環境持続性に関するグローバルなパートナーシップを強化する。	可決	賛成

(6) 2021-I スカウトイベントにおけるレジリエンスとリスクマネジメント

項目	修正内容	結果	日本の投票
修正案A [追加]	機会を認識し、(パンデミック後の)スカウトにおけるデジタル技術の利用拡大を通じて、将来的に世界中のより多くの若者が国際的なイベントに参加できるような方法を模索すること。	可決	未投票 ²⁵

²⁵ 時間不足により、投票できず。



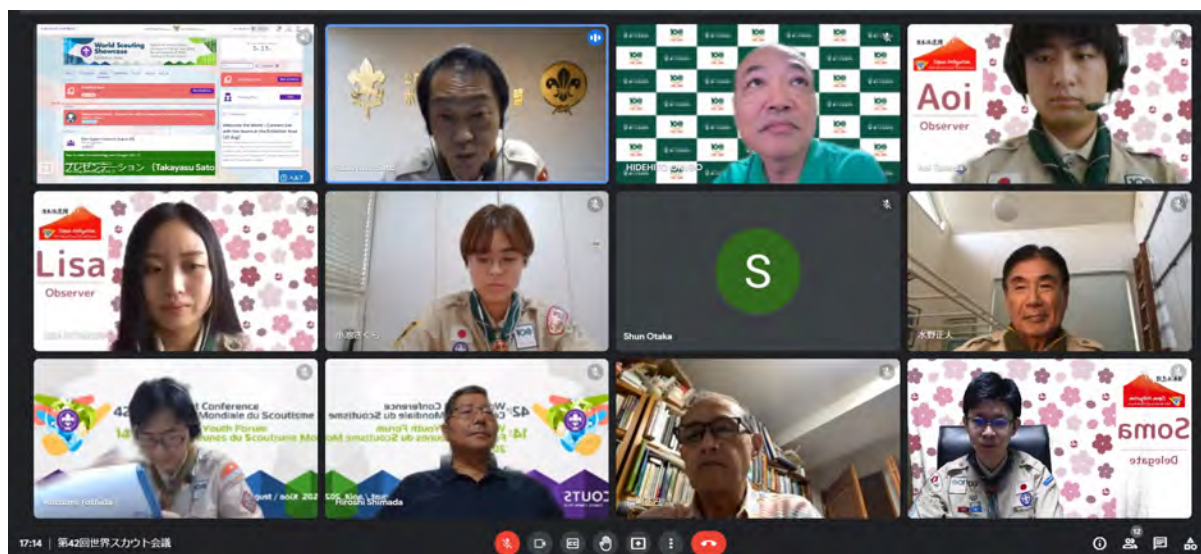
3.2 第42回世界スカウト会議

3.2.1 概要

2021年8月25日から29日までの5日間行われた。170以上の加盟組織から2,300人以上の参加があり、史上最大規模の世界会議となった。昨年2020年にエジプトで開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、1年延期、そしてオンラインでの開催となった。

世界会議への派遣団には、代表として水野日本連盟理事長、佐野専務理事、福嶋日本連盟コミッショナー、嶋田国際コミッショナー、大久保事務局長、そして青年代表として荒岡が参加し、小池、俣野、北村、武田はオブザーバーとして参加した。代表及びオブザーバーで Google Meet の部屋を立て、投票の際などは適宜意思疎通を行った。

資料: [第42回世界スカウト会議概要報告\(日本連盟作成\)](#)



Google Meet で議論する派遣団メンバー



3.2.2 スケジュール

世界フォーラム同様、世界会議のプログラムは日本時間午後4時～午前7時の15時間で開催された。その中でコアタイムは本会議が開かれる日本時間午後9時～午前1時の4時間であった。コアタイム以外の時間では、①決議案の理解や議論をサポート・促進するようなワークショップと、②スカウト活動(3カ年計画)における複数の方向性・テーマに沿った内容で様々なライブセッションが開催された。ワークショップやセッションは講義形式の時間だけでなく、参加者が小部屋に分かれて議論や意見交換する時間も設けられ、双方向のコミュニケーションが考慮されていた。また、同じセッションをコアタイムの前後両方で行ったり、一部をオンデマンド配信する等、バーチャルで開催したことによる時差の弊害を考慮して運営されていた。

なお、コアタイム前後を含めたスケジュールは下記資料を参照。

資料: [第42回世界スカウト会議-概要報告\(日本連盟作成\)](#)

日本時間	8月24日(火)	8月25日(水)	8月26日(木)	8月27日(金)	8月28日(土)	8月29日(日)
21:00 - 25:00 find local time	地域別 会合 **	開会セッション Formal opening and unifying the Movement to come together and celebrate the strength and achievements over the last Triennium (Symbolic engagements, appointment of Officers, report on last Triennium, Youth Forum Report)	スカウティングの戦略- ビジョン2023の進捗報告 * Progress report * Celebrating Growth * Welcoming new WOSM members * Introduction to Triennial Plan 2021-2024 分科会 Breakout Sessions Discovering the World Triennial Plan 2021- 2024 休憩 Break	24WSJ報告 * 24th World Scout Jamboree (North America, 2019) WOSMサービス に関する パネルディスカッション 休憩 Break	報告 Reporting * World Non-Formal Education Forum (Brazil, 2019) 会議決議 投票セッション * WOSM 5年計画 休憩 Break	報告 Reporting * JOTA-JOTI (2017-2020) 会議決議 投票セッション * 決議案
		休憩 Break	2021-2024世界スカウト委員 候補者のプレゼンテーション 投票の説明 世界スカウト委員候補者との 個別質疑 休憩 Break	報告 Reporting * World Scout Foundation * Kanderbeg International Scout Centre バンダミック後の 世界の青少年育成に関する WOSMとパートナー組織の パネルディスカッション 休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案 休憩 Break	休憩 Break
		分科会 Breakout Sessions * Draft Resolutions * Constitutional Amendment 休憩 Break	財務報告 2017-2021 規約改正 投票セッション 国際登録料システムの投票 Vote on 2021-B - WOSM Registration Fee System	世界スカウト行事 招致プレゼンテーション * 26th World Scout Jamboree * 16th World Scout Moot * 43rd World Scout Conference and 15th World Scout Youth Forum 2021-2024 世界スカウト委員の選挙 アナウンス	会議決議 投票セッション * 決議案 世界スカウト行事の投票結果、 世界スカウト委員会の 新委員長・副委員長の発表	閉会セッション Formal closing and unifying the Movement to come together and celebrate the strength and future of Scouting (Bronze Wolf, outgoing WSC Chairperson Farewell address, Investiture of new WSC members, new WSC Chairperson Address, expressions of gratitude)
		DEADLINE 15:00 GMT Constitutional Amendment 憲法改正決議案 採決	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		分科会 Breakout Sessions * Draft Resolutions * Constitutional Amendment	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		休憩 Break	休憩 Break	休憩 Break	会議決議 投票セッション * 決議案	休憩 Break
		本日のまとめ Wrap up of the day	国際班ミーティング	国際班ミーティング	国際班ミーティング	



3.2.3 決議事項

世界フォーラムで議論、投票そして最終的に可決された最終宣言と決議案に対する修正案は、世界会議で直接取り上げられそれを元に議論されるわけではない。世界会議には青年/世界フォーラム参加者の総意として提出され、各国派遣団が世界会議において修正案を提出する際の資料になる。そのため、青年の中では議論が白熱したが、成人指導者とともに意見交換する中で取り上げられなかった部分も多々あった。同時に、青年では気づかなかった視点が修正案として提出され、学ぶことが多々あったことも書き残したい。また、世界フォーラム・世界会議の両方において白熱した議論が行われたテーマもあった。特に、意思決定の場やイベント参加時、青年への割り当て規定“Quota”を定めるかの議論においては様々な意見交換が行われた。

青年内で活発に意見交換されたテーマとして「青年参画」が挙げられる。青年参画戦略や3ヵ年計画の該当箇所には多くの修正案が世界フォーラムで可決されたが、最終的にはある種様々な意見を包含する文章にまとめられている。「環境の持続可能性」というテーマでは、直近山火事等の環境災害が多発したこともあり、世界フォーラムでは多くの修正案が提出、可決された。この問題意識は世界会議参加者の中でも共有されており、最終的な決議事項には世界フォーラムから提出された案がそのまま、もしくは言葉を変えて多くが採用されていた。

なお、世界会議で修正が加えられ承認された最終的な決議事項の原文、ならびに世界フォーラムならびに世界会議が始まる前の決議事項と世界フォーラムで修正された決議案、および最終的な決議事項の比較表は以下の資料を参照。

資料: [第42回世界スカウト会議決議文\(英語\)](#)

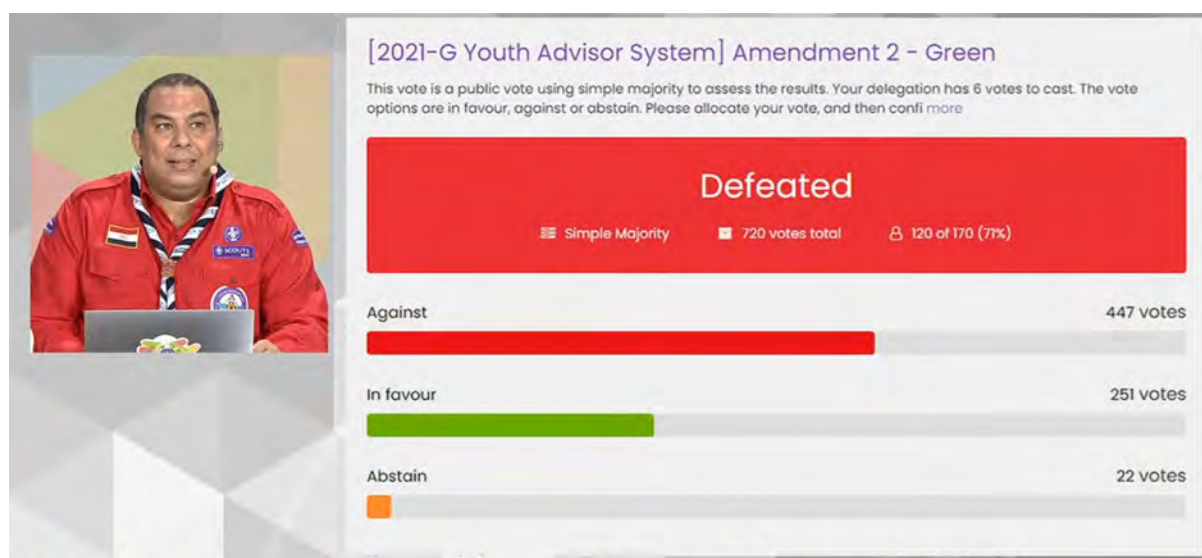
資料: [世界会議 世界委員会の報告書\(英語\)](#)

資料: [世界会議決議 世界フォーラム修正案と採択結果の対応表\(英語\)](#)

3.2.4 評価反省

項目	評価・反省
事前集会	木村さん、尾形さんをはじめ、連盟の方々に今回の派遣について説明していただいた。基本的には世界フォーラムに向けた導入であったため、WOSM や世界フォーラムの内容説明がメインだった。世界会議に向けたお話もより聞ければ良かったかもしれない。世界会議へのイメージはあまり作れずに入ってしまった感じが否めない。
日本派遣団内での連携・コミュニケーション	世界フォーラム参加者は世界フォーラムに向けて、世界会議のみの参加者はそちらに向けてと、最終的には会議で合流するものの、別々で行動・議論していたことが多かった。お互いの中で決議事項への理解や議論を重ねられており、非常に建設的で良かったが、最終的に議論の結果や意見の擦り合わせを行う時間が取れなかったことが残念であった。事前に決議事項やそれに対する派遣団としての意思統一を行うセッションを取れると、より有意義な派遣になると考える。
意思決定への参画	青年としては、自国派遣団内で意思表示を行っており、特に決議案への投票時には青年の立場から意見を伝えることができていた。ただ連携・コミュニケーションの観点からも述べている通り、投票の直前でしかそのような機会を作れていなかった。 世界会議派遣団としては、日本の代表として国内スカウト活動の総意を可能な限り汲み取った動きをできたと評価できる。一方で、貴重な国際的な機会において日本として修正案の提出や連名での支持をできなかったことが、世界フォーラム時の活発な派遣団員の動きと比べると物足りなさを感じた。
世界会議のプログラム	内容としては世界フォーラムと大きく変わりはないが、世界フォーラムでは参加者とプレゼンターともに青年スカウトであったのに対して、世界会議では幅広い年代から参加とプレゼンの両方があり、より高い視座で学び、意見交換することができた。
代表の資質	世界フォーラムから参加し、そのままの勢いで世界フォーラムに合流したため、会議の進行や実際議論する内容・温度感に違和感無くついていくことができた。今後の課題としては派遣団一体となって高いモチ

	ベージョンを維持・伝播させ、国際舞台で存在感を出せばより良いと考える。 次回以降の派遣は、世界フォーラムと世界会議の2つが合体した新しいイベントでの運営が検討されているため、より事前準備やこれらの反省を活かした活動が求められる。今回までのように世界フォーラムで流れを理解するといった余裕はないので心して臨んで欲しい。
--	--



ユースアドバイザー制度に関する決議の修正案が否決された際の様子



4. 派遣終了後

4.1 報告書の作成

世界フォーラムと世界会議の終了後、以下の日程で報告書作成のミーティングを実施した。

9月	3日(金)	15日(水)	28日(火)	
10月	11日(月)	14日(木)	21日(木)	27日(水)
11月	4日(木)	12日(金)	22日(月)	29日(月)
12月	2日(木)	13日(月)	16日(木)	

4.2 RCJ イベントとの連携

令和3年11月23日～28日で開催された、RCJ のオンラインイベント「RCJ X」において、「RS フォーラム【2】青年参画ってなんだろう？ ～ 14YSYF を基に考える～」のプログラム運営を担当した。「Ovice」というオンラインコミュニケーションツールの特徴を活かし、クイズ等をしながらプログラムを展開した。

開催日時: 11月27日(土)9:00-12:00

【プログラムの内容】

1. 世界スカウティングクイズ

世界に広がるスカウティングについて、slido というツールを使用しながらクイズを行った。学校教育としてのスカウティングや他国の最高章に加え、次回世界ジャンボリーの開催地など、世界会議にて採決された最新情報なども組み込んだ。

2. 第14回世界スカウトユースフォーラムの報告

世界フォーラムとは何か、メインピック三つ(ユースアドバイザー選挙・世界会議決議案の修正と採択・フォーラム宣言の採択)をインタビュー形式で紹介した。

3. 青年参画

スカウティングの定義から青年参画について解説した。参画を段階として理解するために、それぞれの段階に当てはまる単語を参加者に配布し組み合わせるゲームを行った。

その後、参加者の活躍フィールドごとに隊活動、指導者、地域ローバース、大学ローバースに分け、それぞれのフィールドでの青年参画の現状を交換した。また異なるフィールドで活



動するスカウト同士での意見交換の時間も作った。その後、主な活動の場でより良い青年参画の実現のために、スカウトだけでなく日本連盟、各県連、隊指導者に対してどのような動きを期待するか話し合い、班ごとに発表した。

事後アンケートでは、「青年参画に対する理解が深まった」「刺激のある話し合いになった」などのコメントもあり、回答者の9割が青年参画を理解できたと回答した。

資料: [RCJX RS フォーラム用スライド](#)



RS フォーラムの様子(RCJ X 公式 Facebook の投稿より)

5. 評価・反省

5.1 目的・目標について

(1) 目的に対する評価・反省

他国の代表との議論の中で日本代表団としての意思を主体的に表明し、世界規模の青年による意思決定のプロセスに関わる。

- ↳ 目標2と関連して、他国代表との議論は行うことができた。YA選挙や修正案の投票では、派遣員で議論を重ね意思を表明し、意思決定を下すことができた。しかし目標1が達成できなかったことに加え、投票直前に慌てて結論が変わったりするなど、主体的な関わりという点においては改善の余地がある。

日本のスカウティングの現状と課題を把握した上で、世界レベルの議論への参加を通じて得られた知見をもとにそれを評価し、代表団として日本のスカウト運動に参画する。

- ↳ 日本のスカウティングの現状と課題は把握することができた。また世界会議の議案をもとにした話し合いから日本のスカウティングを客観的に分析し、日本の課題に関わる他国の取り組みを参考に評価することができた。代表団として、より良いスカウト運動のために日本連盟、各県連盟、団に対し提言を作成している。またローバースカウトの全国大会で青年参画をテーマにしたフォーラムを行うなど、スカウト運動への参画を行っている。

(2) 目標に対する評価・反省

1. 世界スカウト会議議案に対する日本代表団としての意見をまとめる。

- ↳ 世界フォーラム・世界会議の開催前の期間で、ドキュメントの輪読やディスカッションを通じてそれぞれの意見を共有することはできた。しかし、他国派遣団と比べると、決議案に対する修正案の具体性に欠けていた。インターナショナルチームを通じて一部修正案を提案することはできたが、その内容はごく僅かなものにとどまった。



2. 事前事後での他国スカウトとの交流の時間を作り、積極的に議論の場を設ける。

- ↳ 世界フォーラム開催前に、7カ国の派遣団と交流を行い(2.4.1 交流国一覧参照)、その中で世界フォーラムの議題やそれぞれの国の抱える課題などについて議論をすることができた。世界フォーラム終了後も引き続き交流を続けよう確認したが、現時点でまだ実現できていない。

3. RCJ、日本連盟と密に連携し、スカウティングの課題を把握するための議論の場を設ける。

- ↳ RCJ から、全国のローバースカウトの課題に関するインプットの機会を設けたが、その課題に対して議論することはできなかった。準備の時間が少なく、機会を作ることができなかった。
日本連盟からは GSAT の結果を提供していただいたが、議論の場を設けることはできなかった。

4. 世界スカウトユースフォーラム後、日本のスカウティングを評価したうえで、日本連盟及び RCJ に必要な改革案を提示しその実現を働きかける。

- ↳ GSAT の結果をもとに日本のスカウティングを把握し、課題を改善するための提言を作成した。



5.2 派遣全体について

今回の派遣は、派遣メンバー全員にとって初めての経験ばかりであったが、それを考慮した上で、評価すべき点と反省すべき点がそれぞれあったと思われる。以下、派遣前、派遣中、派遣後のそれぞれに対して評価反省を行う。

(1) 派遣前

派遣前の我々は、まさに「五里霧中」。派遣に向けてどのような準備をすればよいのかさえわからず、あれこれと手探りで行動していた。結果として、世界フォーラムのアジェンダに対する検討を限られた時間で行わざるを得ず、日本派遣団としての具体的な修正案等を準備するまでには至らなかった。前回派遣団が報告書で言及していた通り、日本の代表として世界フォーラムに参加する以上、その準備には十分な時間を費やすことが不可欠である。この点に関しては、派遣の募集から当日までの期間が1か月程度しかなかったという時間的制約のせいにする 것도できそうではあるが、一方で、5月の募集要項が出た時点（もしくはそれ以前）から、WOSM のウェブサイト で情報収集をしたり、過去の世界フォーラム参加者にコンタクトをとったりして世界フォーラム参加へのイメージを掴んでおくこともできたとも言える。要は普段から世界フォーラム等に関心を持っておくべきだったという反省になるが、そもそも世界フォーラム関連の情報が開催前後の期間でないと流通しにくいというのも事実である。世界フォーラムに関する情報を継続的に入手可能にするという、組織的な課題も浮き彫りになったのではないだろうか。

(2) 派遣当日

派遣期間中における我々の動きは、一定の評価に値するものだったと考える。この報告書の冒頭でも述べたように、派遣メンバーは直接集合することはできなかったが、各種オンラインツールを効果的に使うことで、コミュニケーションをする上での問題はほとんどなかった。特に、投票フェーズ中は、賛成・反対・棄権の判断を Slack の各種機能を使ったことで、限られた時間の中でスムーズな決断をすることができた。

また、今回はメインのセッションが21時から深夜の1時にわたることもあり、メンバーにとっては負担の大きいスケジュールであった。そのため、セッション以外の時間は十分に休息の時間を取り、5日間の長期プログラムに対応できるように配慮した。

世界フォーラム開始前と同様に、プログラムの空き時間には複数の派遣団と交流・意見交換も行った。また、メンバーそれぞれが所属するインターナショナルチームでの交流にも積極的に参加し、スカウトの和を広げた。

このように、様々なイレギュラー要素がありながらも、臨機応変に対応し、5日間のプログラムを有意義に過ごすことができた。



(3) 派遣後

世界フォーラムと世界会議が終了した翌月から、我々は報告書の作成および提言の策定に取り組んだ。報告書の構成や細かな項目に拘ったためか、世界フォーラムが終了してから報告書の提出までに4ヶ月間で15回のミーティングを実施することになった。もう少しペースアップすることもできたのではないかと反省が残る。

一方で、世界フォーラム語に最終宣言や世界会議の採択文を何度も読み直す機会を取ったおかげで、我々の理解は深まった。それらのインプットと世界フォーラムでの経験を紹介する機会として、上述の通り RCJ イベントでは、プログラムを通じて一定数のローバースカウトに世界フォーラムで議論されたことを共有することができた。

6. 派遣メンバー所感

荒岡 草馬(首席代表、福岡県連盟福岡第19団)

今回の世界フォーラム派遣は、いわば私のローバースカウトの集大成となり得るものだ。7年前にローバー隊に上進した私は、ローバー活動の自由さや抽象度の高さについていけず、自然とスカウト活動から離れるようになった。しかし、3年前に福岡のローバーコミュニティができた際に徐々に活動に復帰し、以来、RCJの県代表や運営委員等の経験を通じて、県や全国のローバー活動の実態を知ることができた。加えて、研修所や実修所といった指導者養成プログラムにも参加し、スカウト教育法についても知見を得た。

これらの経験を積む中で、私は日本のスカウト運動、とりわけユース年代の抱える課題について考えるようになり、自身がローバースカウトである間に何かしらの行動を起こしたいと考えていた。そんなとき、この世界フォーラムの開催を耳にし、これまであまり関わることのなかった世界規模のプロジェクトに不安を覚えながらも応募を決意した。完全オンライン開催という前例のないイベントで、代表という重い役目を務められるのかプレッシャーを感じていたが、ともに参加するメンバーとの議論し、交流を深める中で、次第に「自分たちにしかできないことがあるんだ」という使命感を感じるようになった。

世界フォーラム期間中は、派遣団同士のミーティングやインターナショナルチームでの交流などを通じて、スカウトの輪を世界に広げたことはもちろん、それぞれの国のスカウトがどのような問題意識を持っているのかも知ることが



できた。そしてそれは、日本のスカウティングを客観的に評価する上での指標にもなった。正直、世界フォーラム期間中は新しく知ることを「インプット」するばかりで、日本としての立場を世界に対して表明するという本来の役目を全うできなかったと反省する。しかし、個人的には世界フォーラム終了後に国内のスカウトや成人指導者に対してどのような「アウトプット」をするかも、同様に重要な責務であるとする。参加報告書と提言をただ形式的に提出するのではなく、それらがパワーを持って日本のスカウティングが抱える課題の解決に資するものとならない限り、今回我々が派遣に参加した意義は失われるだろう。

つまり、この報告書が提出された段階ではまだ、我々が役目を果たしたのかどうかは評価できず、したがってこの世界フォーラム派遣が私自身にとって「集大成」となるか否かは、今後の取り組みにかかっている。



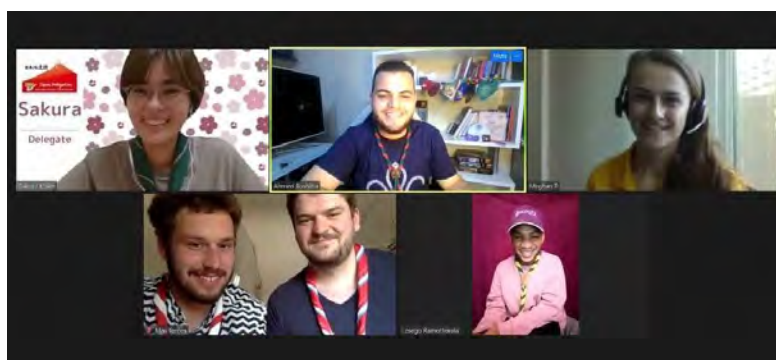
小池 さくら(代表、愛知連盟日進第2団)

世界スカウトユースフォーラムに参加を決めたのは、県連事業で奉仕をするローバースカウトとして活動に関わる中で、青年参画に対しての課題意識を持ったことがきっかけでした。青年参画は世界レベルで重要視されているトピックであることから、世界フォーラムに参加することで世界の青年参画の仕組みを学び、そのために必要な考え方や知識を学びたいと思いました。

「この運動を支えていくのは私たちスカウトの主体性である」。実際に世界フォーラムに参加して分かったことは、この自覚が青年参画の実現のために最も重要であるということです。同じ International team に所属する世界の仲間と、会議の議案について話し合いをする中で、メンバーの熱意と主体性に圧倒される場面がとても沢山ありました。他国のスカウトには皆自分の国のスカウティングの課題をしっかりと把握し、働きかけようとする姿勢がありました。彼らのような、自分たちの運動を自分たちで決めるんだという強い意志を持つことが、青年参画の第一歩になると実感しました。

また、フォーラム中は私にとってとても大きな言語の壁がありました。しかし、メンバーが名前を呼んで意見を求めてくれたりゆっくり議論の流れ説明をしてくれたり、いつも気にかけてくれたことで私もチームの意思決定に参画することができました。この経験を通じて、自分の意見に耳を傾けてもらえる環境が本人の主体性を引き出すきっかけになると気づくことができました。

今後私自身がスカウト活動を行っていく上で、青年参画のレベルを向上させていきたいという意思は変わりません。「私たちの主体性が運動を支えている」という意識を周りのスカウトに広げていくこと、意見を引き出せる環境を作っていくことを大切にして、より良いスカウト運動のために活動していきたいと思います。加えて、フォーラムに参加する前は青年参画が実現されない要因がスカウトだけにあると思っていましたが、その実現のためには運動にかかわる成人指導者からの理解も必要不可欠だということがわかりました。そのため、成人指導者とのコミュニケーションを大切に、相互的に青年参画の実現に働きかけていきたいと思いますし、国内の成人指導者の方々には私たちスカウトの参画を支援していただきたいと思っています。





武田 蒼(オブザーバー、山形県連盟山形市第1団)

ひょんなことから本派遣への応募を決めたのは、大学受験を終えて本格的にスカウティングに復帰しようとした春先のことだった。スカウティングから1年以上離れていた私がいきなりこのような派遣に参加してもいいのだろうか、と思いつつも、これも何かのチャンスと思って応募したのを今でも覚えている。そこから私の激動の日々が始まった。

正直なところ、世界フォーラムの準備は時間との戦いだった。派遣員の選考は6月末、決定が7月上旬、本格的な準備が始まったのは8月に入ってからだった。そこから何度もミーティングを繰り返し、大量の文書を読み、本番に備える。これを1か月足らずで完遂するのは容易ではなかった。世界のスカウティングのトレンドに追いつくため、知識を貪欲に吸収していった。しかし、それだけでは足りないことを後に私は強く思い知らされることになる。

世界フォーラム開始後、私は膨大な量の議題に圧倒されることになる。今は何を話し合っているのか、争点はどこにあるのか、どのような意見が出ているのか、それを理解するので精いっぱいだった。もちろん私もただ黙りこくっていたわけではない。時には他国のスカウトからの問いかけに対して自分なりの考えを述べることもあった。しかし、やはり主体的に意見を述べ、議論を進めていけたわけでは



ない。はっきり言って準備不足だった。ただ文章を読むだけではなく、その内容をよく理解し、それに対する自分なりの考えをまとめる。そこまで至ることができたならば、また何かが変わっていたのかもしれない、今は強くそう思う。事実、積極的に議論を進めていたスカウトたちは数か月、あるいは年単位で準備を進めていた。ここに彼らと我々の差が表れたのだろう。

ところで、今回の世界フォーラムの重要なトピックに「青年参画」がある。要は現役のスカウトあるいは同年代の若者が主体的に議論などに参加するという考え方で、我々はこの気風をを日本国内に広めていくことを今後の展望として掲げているが、これがなかなか難しい。忌憚なく言うと、我々派遣員一同は積極的に自分の意見を表明していくことができるタイプだ。それでも準備が不足していると先に述べたような事態に陥る。ならば国内の多くのスカウトを闇雲に議論の場に引き出したとして、本当に有意義な議論ができるのだろうか。そもそもそこまでして知識を蓄え、自分の意思を表明することにやりがいを感じる者は一体どれくらいいるのだろうか。そう思うと、自分たちがやろうとしていることによって得られうる利益にしか目を向けず、そこへ至るまでの弊害を認識しないことがいかに危険で傲慢であるのかを強く実感せずにはいられない。何かを成すときには物事の様々な側面に目を向けねばならない。そのことを認識した先に "Creating a Better World" の実現があるのだろう。

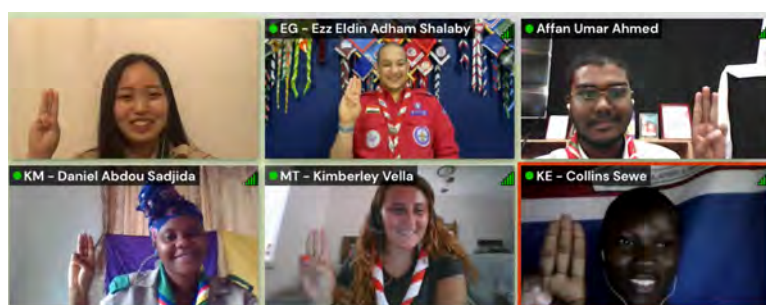


北村 梨沙(オブザーバー、島根連盟松江第1団)

今年度は RCJ 運営委員及び中国・四国ブロック代表になったことは私の大きな転機となった。ローバースカウトやスカウティングに関して考える機会が増え、さらに知見を深めたい、組織に貢献したいと思い、世界フォーラムに参加させてもらった。

今回の世界スカウトユースフォーラムでスカウティングに対する価値観が変わった。ボーイスカウトを続けて14年、ローバースカウトになって2年目、スカウトとして終盤に差し掛かっていると思っていたが、新たな学びばかりであった。内容はもちろんのこと、海外スカウトとの議論や交流では異なった価値観に触れることができた。その中でも海外スカウトのスカウティングに対する姿勢が印象に残っている。世界フォーラムの参加や世界フォーラム前後での海外スカウトとの関わりを通して、今までの自分の受動的な姿勢を改善しなければならないと気づかされた。

世界フォーラムでの大きなテーマの一つに「青年参画」があった。世界フォーラム参加以前は国内や地域内でスカウトがスカウティングを十分に牽引できていないという課題に関して、既存のシステムに問題があるのではないかと、指導者の方の理解が得られていないのではないかと考えていた。しかし、世界フォーラムを終えた今、日本の「青年参画」の大きな原因はそこではないのかもしれない、と考えるようになった。もちろん前述のような原因もあるのかもしれないが、まずスカウト自身、あなたが本当に積極的に動いているのか、愚痴をこぼす前に言葉にして周りに伝えたか、これは自戒も込めて問いたい。成人1人に伝えて上手いかなければ、別の指導者に伝える、他のスカウトを巻き込む、など手立てはいくらでもある。批判的になることは良いことだが、それを批判で終わらせるのではなく、改善のためにどう働きかけられるか、を考えてみてほしい。スカウトの皆さんが積極的に思ったこと、感じたことを発信し、スカウティングを自分のものにできることを願っている。



に感謝を示したい。

そして、次回の世界フォーラムに参加するスカウトへの期待を添えて、所感を締め括りたい。

最後に。長期に渡ってスカウティングを続けることができた背景に島根連盟の方々はじめ、多くのサポートが必要不可欠だった。そして、このような世界規模のフォーラムに参加する機会をいただけたこと、多くのご支援をいただけたこと

俣野 陽(オブザーバー、東京連盟渋谷第5団)



これまで自身の所属団や地区を超えて活動することは数多くあったが、今回の世界フォーラムはスカウト活動を介して議論を行う初めての機会となった。初めての経験が世界スカウトユースフォーラムと世界スカウト会議となり、始まる前や派遣団員任命式等では非常に緊張した。ある程度の語学力とコミュニケーションに不安はなかったが、ボーイスカウトについて議論することが初めてであったこと、また今回招集後に初めてRCJ等の全国的な活動があることを知り、日本・世界におけるスカウティングの前提知識不足に直面し大きな不安を覚えた。ベンチャー・ローバー年代のスカウティングによりコミットしていれば、参加への不安はなかったかもしれないが、部活動への専念を通じて培ったスキルを大いに活かし活動できたと感じている。回り道はしたかもしれないが、ビーバースカウトから途中一度も辞めず、様々な経験を経てスカウティング最高峰の場所で議論やアウトプットをするチャンスをいただくことができ大変光栄であった。後輩スカウトには、休隊や未活動の期間を挟んだとしても "Once a scout, always a scout" を道標として、様々な可能性を秘めているスカウティングを自分なりのやり方やペースで続けて欲しい。

世界フォーラムや世界会議における議論や交流を通じて様々な刺激や気づきを得ることができた。また各国派遣団が入念に準備を重ね、各々の考察や意見といった成果を議論の中で交換する光景を目の当たりし、同時に自分自身も主体的に参加したことで、今抱える課題や将来の展望についてより理解や考えの幅を広げることができた。特に印象的に残っているのは、出身地域によって大きな課題と感じているテーマが大きく異なっていたことだ。各々の置かれている環境によって感じる課題が変わってくるのは当たり前のことであるが、インターナショナルチーム内での議論においてそれぞれ強固に主張しているのを見て強く再認識させられた。スカウトの考える課題意識の国際的な潮流はあるものの、各地域各国によって実情は大きく異なっている。しかし視野を広く持つと、様々な課題や問題の中で全く手の付けられていない、解決できていないものの方が少ないのではないかとと思う。各々がノウハウや知識を共有し、得た情報をそれぞれの地域に根ざした解決策にアレンジすることができれば多くの問題を解決に導けるのではないかと手応えを得た。その為にも多くの情報に触れ、他国のスカウトとコミュニケーションを絶やさず、常にアンテナを張っている必要がある。最終的には全世界の仲間と協力し、地球規模の問題を解決できる土壌や余裕が出てくると嬉しい限りだ。

今回の派遣を通して様々な経験をし、濃密な2週間弱を過ごすことができた。この所感を通して、全国のスカウト仲間みんなが各々のスカウティングの形を模索し、更なる可能性に胸を躍らせるきっかけとなれば幸いだ。最後になるが、派遣への応募と参加を快諾いただいた所属団関係者の皆様、派遣前から準備等様々な機会を提供していただいた日本連盟関係者の皆様、情報共有等サポートしていただいた RCJ 関係者の皆様、そして日頃からサポートしていただいている全ての皆様にこの場をお借りし感謝したい。





7. 日本派遣団としての提言

はじめに

- 私たち、第14回世界スカウトユースフォーラム日本派遣団（以下「14WSYF派遣団」）、及び第10回APRスカウトユースフォーラム日本派遣団（以下「10APRSYF派遣団」）は、それぞれ参加したスカウトユースフォーラムでの経験を踏まえ、日本のスカウティングに対して提言を行います。
- 本提言は、14WSYF派遣団が策定した提言案に対し、10APRSYF派遣団が修正案を加えることによって策定された共同提言文です。
- 7つのカテゴリごとに個別の項目を設定し、それぞれ「スカウト」、「成人」、「RCJ」および「日本連盟」に対して提言をしています。これら四者が協力して提言に取り組むことによって、理想とする状態の実現を目指します。
- 本提言は、隊活動から全国の活動や組織運営のあらゆるレベルにおいて適用されることを想定しています。
- 提言文中、特に指定のない場合、「スカウト」はビーバースカウトからローバースカウトまでの全部門のスカウトを指します。
- 提言文中の「成人」は、原則としてスカウト運動に関わるすべての成人（Adults in Scouting）を指します。
- 本提言は、RCJや日本連盟との協議を経て内容を修正し、また公開後も実際の運用の実態等を加味して定期的に更新されるものとします。

本提言の詳細な説明および更新情報は、 **提言説明用スライド** を直接ご覧ください。

A. 青年参画とリーダーシップ

スカウティングは、よく「青少年のための教育運動」と表現されます。しかし、「ための」とは、決してスカウトが成人から一方的に教育を受けるだけの受け身の姿勢を示しているものではありません。スカウトには、成人によってサポートされた環境の中で、自発的に自分たちの活動に参画することが期待されているのです。それ故に、スカウトが自分たちに影響のある意思決定に参画することは、当然のことであると言えます。スカウティングにおいて青年参画が進むことは、スカウトがイノベーションを起こすことにも繋がり、それはこの運動、ひいては社会全体の活性化にも貢献します。スカウトにリーダーシップスキルを身に付けさせることも、スカウティングの重要な使命です。[アクティブシティズン](#)²⁶が求められている現代社会において、若者のリーダーシップスキルを養う上で、スカウティングは多くのチャンススカウトに与えることができます。

スカウティングにおける青年参画とリーダーシップスキル開発のためには、スカウトと成人による世代間対話を促進し、スカウトと成人が対等な立場で議論のできる環境を構築することが必要です。

1	青年参画の理解促進	理想	すべてのスカウトおよび成人が青年参画の意義と重要性を理解する。
		スカウト	自分たちがスカウティングにおける「主人公」であり、それゆえにスカウティングにおける青年参画は重要だということを認識する。 ボーイスカウト講習会や各種研修プログラム等に参加し、スカウト教育法における青年参画の内容について知る。
		成人	Youth Involvement Policy に目を通し、青年参画の意義について知るとともに、隊活動等を通じて、スカウトに青年参画を働きかける。
		RCJ	国内のローバースカウト向けに、イベントや情報の提供を通じて青年参画の重要性を広めることに加え、実際にその機会を与えるための施策を展開する。
		日本連盟	国内のスカウトと成人を対象に、青年参画の重要性をより理解してもらうための施策を展開する。
2	多様な選択肢の提示	理想	スカウトにあらゆる選択肢が提示され、本人の自由意思による行動が尊重される。
		スカウト	単に与えられたことに取り組むのではなく、自身の成長につながるものを選ぶための軸を持ちつつ、多様な選択肢の中から自身の意思に基づいて行動する。
		成人	何がスカウトの成長にとってより良いものになるか考え、スカウトに自由な選択の機会を与える(とりわけ、ローバースカウトに対しては指導者としての役割以外の選択肢も提示する)。
		RCJ	国内のスカウトを対象に、ローバースカウトの活動モデルを提示し、ローバー年代の多様な活動のあり方を示す。
		日本連盟	スカウトと成人がともにローバー部門の教育のあり方を理解することのできるプログラム(単なるローバー過程研修所・実修所の復活に限定されない)につき、ローバースカウトの声を取り入れながら検討し実施する。(C-3「ローバー部門教育プログラムの見直し」と共通)
3	対等な立場での議論	理想	スカウトと成人が対等な立場で対話・議論できる。
		スカウト	年齢に関係なく、成人と積極的に対話・議論をして意思表示をする。
		成人	「 Roger Hartのはしご 」を参考に自身のコミュニティにおける青年参画を評価する。 スカウトと成人が対等な立場で対話・議論する機会を積極的かつ継続的に設け、議論の際はスカウトによる意見には誠意を持って対応する。

		RCJ	情報提供等を通じて、スカウトと成人が対等な立場で議論できるように支援を行う。
		日本連盟	スカウトに影響のある決定を行う際に、スカウトと成人が対等な立場で議論を行う場を設け、スカウトの意見を成人のものと同様に尊重する。 スカウトと成人が対等な立場で議論を行えるように、成人指導者に教育、意識付けを行う。
4	RCJの意思決定要素の強化	理想	RCJが青年の意思決定機関として実質的に機能する。
		スカウト	RCJや地域コミュニティなどを活用して、同年代の意思決定の機会に積極的に参加する。
		成人	RCJや地域コミュニティなど、青年による意思決定の場とそこでの決定を尊重し、適宜スカウトに対して情報の提供や働きかけを行う。
		RCJ	RCJ総会が青年による意思決定の機会として機能するように、出席者に対して事前の情報提供及び決議事項のありかたを改善する。 RCJが国内のローバースカウトによる意思決定機関として認定してもらうよう、日本連盟に働きかける。
		日本連盟	RCJを青年による全国規模の意思決定機関として認定し、青年に関わる重要事項の決定に際しては、RCJの決定を尊重する。
5	世界レベルの意思決定への青年参画	理想	世界レベルの意思決定に、国内のスカウトの意見がしっかりと反映される。
		スカウト	世界レベルの意思決定について関心を持ち、自身のスカウティングとの関連性や影響について考える。 あらゆることに問題意識を持ち、他のスカウトと積極的に議論して意見を交えるとともに、集団としての意思決定における交渉等の手法を知る。(共通) 議論した内容を、さらに高次の意思決定の場にあげ、異なる価値観や背景を持つ相手との議論を通じて、より大きな集団における意思決定のプロセスを経験する。
		成人	世界レベルの青年による意思決定について常に最新の動向を把握し、必要に応じてスカウトへの指導法や働きかけを見直す。 スカウトに、自身の課題意識や意見を表明させる文化を醸成し、議論のための環境を積極的に構築する(教育法と共通)
		RCJ	世界レベルの意思決定イベントに参加する青年代表者を、全国のローバースカウトの総意によって選出するための仕組みを検討し、運用する。 RCJフォーラムやローバーフォーラムの機会をこれまで以上に設け、スカウト同士の議論の機会を保障する。
		日本連盟	スカウトが、自分たちに関わる問題について議論できる場を積極的に設けると同時に、成人に対しても、そのような環境の構築を働きかける。(教育法と共通) 国際フォーラム派遣団と国際会議派遣団及び日本連盟同士の情報や意見の交換が十分に行えるよう仕組みを整える。(ガバナンスと共通)
6	リーダーシップスキルの開発	理想	スカウトのリーダーシップ能力の開発が広く受け入れられる。
		スカウト	社会においてリーダーシップを発揮することの大切さを認識し、指導者や県連盟等に対してリーダーシップ能力開発の機会構築を要望する。
		成人	スカウトにリーダーシップ能力開発のための機会を十分に提供すること。
		RCJ	ユースがリーダーシップスキルを身に付けられるような施策を展開する(日本版「リーダーシップトレーニングプログラム」など)。 今ある県代表やブロック代表などの仕組みを生かして、よりリーダーシップを発揮できるような施策を講じる。
		日本連盟	意思決定プロセスへのユースの積極的な登用にむけ、トレーニング等を通じて支援を行う。 スカウトがリーダーシップスキルを身に付けられるように、成人に対して必要な教育及び情報提供を行う。
7	ユース	理想	青年がスカウティングのあらゆるレベルでリーダーシップを発揮する。

リーダーの登用	スカウト	リーダーシップは年齢に関係なく発揮して良いということを知り、成人やRCJ、日本連盟が設けるリーダーシップスキルを高められる機会を積極的に活用する。
	成人	青年がリーダーシップを発揮すべき機会においては、青年をリーダー役に登用し、その行動を尊重する。
	RCJ	日本連盟に対して、各種意思決定機関への青年の登用を働きかける。
	日本連盟	各種委員会、またはイベントや事業等のリーダーポストに、青年を積極的に登用する。 国内のローバースカウト関連ポスト（ローバー担当コミッショナー等）に、ローバースカウトまたは30歳以下の指導者を充てる。

B. 国際性の強化

スカウティングは世界最大規模の青少年のための運動です。その構成員は5700万人を超え、異なる背景や文化を持った仲間が世界中に存在しています。国際的なイベントやプログラムが世界各国で様々な形態によって開催されており、スカウトはこれを通じて国際感覚を磨く機会を与えられています。また、近隣国や友好国同士で交流プログラムなども展開されています。しかし、日本における国際プログラムはまだまだ限定的です。デジタルツールが進化し、国際交流がますます容易になっている今こそ、日本のスカウティングの国際性を強化することが期待されます。

1	国際性の強化	理想	国内のスカウティングのあらゆる場面で国際性の強化が推進される。
		スカウト	スカウティングが世界最大規模の青少年運動であり、全世界に同世代の仲間がいるということを認識する。 国内に限らず、グローバルな視点を持ち、世界的に生じている課題に対してスカウトとして何ができるのか考える。
		成人	スカウティングにおける国際性の意義を理解し、スカウトが国際感覚を養うことのできる活動環境を提供する。
		RCJ	運営委員もしくはタスクチーム等に国際担当職を設けるなど、国際性の強化をRCJの主力事業に位置づけるよう努力する。
		日本連盟	スカウトの全年代において、国際感覚を養うことのできる教育法、環境を提供する。 スカウト個人、団、代表団レベルで誰もが日本のスカウティングを海外スカウトに紹介できるようにするため、英語の日本連盟PR動画を作成、または動画の公募を行う。
2	国際プログラムの充実化	理想	活動における国際交流や異文化理解の機会が増加する。
		スカウト	隊や団、地区の活動で国際プログラムを提案し、積極的に企画や運営に関わる。
		成人	隊活動等で国際性を養うためのプログラム（とりわけ外国人スカウトとの交流プログラム）を組み込み、継続的に展開する。
		RCJ	CJK（バングラデシュ公益事業）を始めとする国際プログラムを企画し、定例行事として年間事業に組み込む。
		日本連盟	スカウトや成人（団や都道府県連盟）、RCJが取り組む国際プログラムを支援する。
3	国際動向の把握と	理想	世界や他国と比べたときの日本が客観的に評価され、制度や組織構造の改善に役立てられる。

	国内への適用	スカウト	WOSMや日本連盟が発信する情報に触れ、国際的な動向に照らして日本のスカウティングを客観的に評価する。
		成人	グローバルレベルで問題(地球環境・メンタルヘルス)となっていることや青少年が関心(青年参画)を持っていることをインプットし、それらの活動を行えるような環境整備を行う。
		RCJ	RCJ Webなどを活用して、地球市民の説明や国際関係の情報を発信する。報告書など、国際レベルの活動にアクセスしやすくする。
		日本連盟	WOSM、世界スカウト会議、世界スカウト委員会、APR委員会等の動向が、国内のスカウト及び成人指導者にいち早く共有される仕組みをつくる。 他国連盟の取り組み・施策を調査し、評価できるものは国内向けへのプログラムとして積極的に展開する。
4	他国連盟との繋がり	理想	他国連盟との繋がりが強化され、国際プログラムが増加する。
		スカウト	ジャンボリーなどで知り合った海外のスカウトと継続的に連絡を取り合い、定期的に交流や意見交換を行う。
		成人	他の外国連盟や団とのパートナーシップを締結するなど、スカウトの国際交流促進のための基盤を構築する。
		RCJ	外国連盟(他国ユースコミュニティ)との連携を通じて、スカウトの国境を超えた交流が促進されるような施策を展開する。
		日本連盟	外国連盟との結びつきを密にし、スカウト同士の交流の機会を増やす。
5	国内外国人スカウトの支援	理想	国内の外国人スカウトの活動が適切に支援される。
		スカウト	国内で活動する外国人スカウトと積極的に交流し、お互いの文化や価値観を交換する。 自身の活動するエリアに活動を希望する外国人スカウトがいる場合は、参加を呼びかけともに活動を行う。
		成人	団や地区で協力し、当該エリアで活動する外国人スカウトのための支援を検討、実施する。 団のホームページを英語版対応にするなど、活動を希望する外国人スカウト向けに受け入れ体制を整える。
		RCJ	地域ローバーや大学ローバーと連携し、全国の外国人スカウトが活動に参加しやすい環境の構築に取り組む。
		日本連盟	日本国内にいる外国スカウトの活動ニーズを把握し、活動に参加するハードルを下げるための施策を実施する。 外国人スカウト受け入れ対応を一本化(日連窓口対応/サイト→現状なさそう)し、受け入れ地域の団支援・地区支援を展開する。

C. 教育法と新時代のスカウティング

スカウト教育法は、創始者ベーデン・パウエル卿の教えを尊重しつつも、その内容を時代の変化に応じて柔軟に更新するべきです。予測不可能(VUCA)な時代だからこそ、既存の教育法に満足するのではなく、変容し続ける必要があります。また、昨今新型コロナウイルス感染拡大によりスカウト活動が制限され、スカウティングの在り方が変わりつつあります。ポストコロナ時代にも適用できる新しいスカウティングを検討していくことが重要です。加えて、青少年が地域やデジタルの格差なく、平等にスカウティングに参加できる仕組みづくりが必要不可欠です。

1	教育法の柔軟性	理想	教育法が柔軟にアップデートされ、時代や社会状況に即した教育をスカウトが享受できる。
		スカウト	スカウティングと、学校での教育、普段の生活のとの相違点を考える。
		成人	研修プログラム等で基本的なスカウト教育法を学ぶと同時に、現代の教育にとって必要だと思うことを考え、提案する。
		RCJ	ローバースカウトを中心に、現行の教育法に改善点がないか、議論する場を設ける。
		日本連盟	指導者やスカウトの声を取り入れる。
2	連続性の強化	理想	部門間の連続が強化され、上進時のギャップが解消される。
		スカウト	上進前から次の部門で取り組みたいことのイメージを持っておくと同時に、後輩スカウトに対して上進後の活動の様子について共有する。
		成人	部門間の連携を密にし、次部門での活動を見据えた教育を施すとともに、スカウトが上進時に大きなギャップを感じないように支援を行う。
		RCJ	ローバー活動のイメージを持てるように、ベンチャー以下の部門のスカウトに対しても、イベントやプロジェクトを通じてローバーの活動を発信する。
		日本連盟	ハンドブックの記載や研修プログラムの内容を見直すなど、部門間、とりわけベンチャー部門とローバー部門のギャップを解消するための方策を検討する。
3	ローバー部門教育プログラムの見直し	理想	ローバー部門における教育プログラムが改善される。
		スカウト	ローバー部門においてどのような教育・支援が必要か考え、同世代のスカウトや成人との対話を通じて、現状の教育プログラムの改善点を提案する。
		成人	ローバースカウトの教育について、団や地区のローバースカウトと対話する機会を設け、それを踏まえて自身の教育のあり方を評価し改善する。
		RCJ	ローバー部門における「教育」とは何かについて、全国のローバースカウトで議論する機会を設け、その結果を日本連盟及び各都道府県連盟の指導者に共有する。
		日本連盟	スカウトと成人がともにローバー部門の教育のあり方を理解することのできるプログラム（単なるローバー過程研修所・実修所の復活に限定されない）につき、ローバースカウトの声を取り入れながら検討し実施する。
4	教育のDX化推進	理想	デジタル時代にふさわしいスカウト教育法が展開される。
		スカウト	デジタル・ネイティブの視点から現状のスカウト教育の非効率的な点を見つけ、改善策を提案する。
		成人	団や地区、都道府県連盟等における業務のうち、DXにより効率化できるものがないか調査改善し、成功事例を他の団や連盟等に共有する。
		RCJ	各種事業や組織運営において積極的にDXを推進し、全国的な運用の参考になるようなロールモデルを作る。 全国のローバースカウトに対し、デジタルツールを用いた活動や交流の手法を紹介する。
		日本連盟	各種進級科目や研修プログラムをeラーニングで受講可能にするなど、スカウト及び成人の学びの利便性を高める。 ポータルシステムなどによって各加盟員の情報を一元管理し、本人も閲覧や更新が可能ないように整備を行う。 事務作業のDXを推進し、全国の都道府県連盟や団にもその手法を共有する。
5	SDGsの推進	理想	SDGsが広く認識され、普段の活動や日常生活で積極的に取り入れられる。
		スカウト	「持続可能な開発目標(SDGs)」について調べ、 Scouts for SDGs のページを参考にしながら、普段の活動で取り組めそうなプロジェクトを企画・実行する。
		成人	「持続可能な開発目標(SDGs)」の意味と内容について理解を深め、隊活動やスカウトの教

			育の場面にどのように適用できるか検討し、実践する。
		RCJ	各事業や組織運営においてSDGsの開発目標を積極的に取り入れると同時に、スカウトがSDGsに取り組む上で有用な情報を提供する。
		日本連盟	各事業や組織運営においてSDGsの開発目標を積極的に取り入れると同時に、Scouts for SDGsのコンテンツをアップデートし、スカウトおよび成人によるSDGsへの取り組みを支援・促進する。
6	Earth Tribeの推進	理想	Earth Tribeがスカウトおよび成人に広く認知され、活動で積極的に取り入れられる。
		スカウト	Earth Tribeについて調べ、自身の生活やスカウト活動の中でEarth Tribeに取り組めることがないか考え、実行する。
		成人	Earth Tribeの意義について理解し、隊プログラムの策定や進級等の文脈で積極的に活用する。
		RCJ	Earth Tribeの意味や、国内外の取り組みを紹介するなど、全国のローバースカウト向けに理解や実践を促す。
		日本連盟	Earth Tribe実施支援。他団体や企業からの協賛や共同実施等を検討する。
7	信仰教育の見直し	理想	信仰がスカウティングにおいて適切に位置づけられつつも、それぞれのスカウトの価値観や思想が十分に尊重される。
		スカウト	様々な宗教についての客観的な知識を得たうえで自らの宗教観と向き合い、それがスカウティングにおいていかなる形で反映されるべきかについて自分なりの考えを持つ。
		成人	スカウトの、ひいては現代の若者の多様な宗教観を十分に尊重し、なんらかの宗教の信仰を強制することなく教育を行う。ただし、ここでの信仰の自由には、「信仰しない自由」も含むことに留意する。
		RCJ	スカウティングと宗教の関わりを現代の実情に即したものとアップデートするため、スカウト同士が自らの宗教感を忌憚なく共有することのできる議論の場を提供し、得られた知見を日本連盟へ提供する。
		日本連盟	一定数のスカウトが「信仰しない自由」を有していることも考慮に入れ、スカウトの進級等において不平等が生じないよう、現行の制度を評価・改善する。その際、現代の若者の宗教観や、近年の各国連盟の動きなどを考慮することが望ましい。

D. ダイバシティ&インクルージョン

スカウティングは全ての人に開かれた活動であり、性別・性的指向・人種・宗教・信条に関わらず、スカウト運動の価値に基づく性質を強調しながら、一人ひとりがユニークな存在であり、多様な社会の一員であることを認識しています。男女共学、多様性と包括性をスカウト運動全体の横断的な焦点として主流化、より包括的な政策と構造を確保し、スカウト運動の統一の鍵として多様性を受け入れます。また障害、精神障害、メンタルヘルスを多様性と包括性の重要な構成要素とし、アクセシビリティと参加のための体系的な障壁を低減するよう取り組みます。

1	ダイバシティ&インクルージョンの理想	ダイバーシティ&インクルージョンがスカウティングに関わる全ての人の生活内でスタンダードとなっている。
---	--------------------	--



理解・認知		スカウト	ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の意味について理解し、身の回りの事例を考える。スカウト皆仲間であることを認識し、普段からダイバシティ&インクルージョンを意識して活動に取り組む。
		成人	ダイバーシティー & インクルージョンに関して理解を深め、留意した運営を行う。
		RCJ	D&Iを浸透させる。なぜ重要なのか。スカウティング内外で⇒ダイバーシティー & インクルージョンの啓蒙活動を行う。
		日本連盟	ダイバーシティー & インクルージョンの啓蒙を行い、全てのスカウティング関係者へ学ぶ機会を提供する。
2	イコールアクセス	理想	スカウト・指導者がともに公平で平等に学び・成長できるスカウティング環境を整備する。
		スカウト	スカウティングにおけるイーコールアクセスの意味を理解し、自分の周りでアクセスの障害となっている要因を調べ、解決策を検討する。
		成人	性別、性的指向、国籍、障害の有無等の理由でスカウトを差別し、またはスカウティングへのアクセスを妨害しない。
		RCJ	スカウティングの様々な形(国内外問わず)を紹介することで、ダイバーシティー&インクルージョンの啓蒙へ繋げる。
		日本連盟	スカウトが、性別、性的指向、障害の有無、国籍・・・等に関わらず、等しくスカウト活動に参加できるような仕組みを構築する。
3	ジェンダーイコリティ	理想	すべてのスカウトおよび成人が、活動の機会や組織における役割等において性別の違いによって差別を受けない。
		スカウト	普段の活動において、性別による差別と区別の例をそれぞれ挙げ、そのうち差別を解消するためにはどのような行動に出ればいいのか仲間や成人と話し合う。
		成人	自身のスカウトや他の成人に対する接し方や、隊や団、組織の仕組みにおいてジェンダー平等の障害となっている要素を洗い出し、改善する。
		RCJ	スカウト活動におけるジェンダーについて考えるためのイベントやキャンペーンを実施する。
		日本連盟	ジェンダー共同参画特別委員会を筆頭に、スカウト活動のあらゆるレベルにおけるジェンダー平等が推進されるようスカウト、成人および関係機関に呼びかける。
4	性的マイノリティへの配慮	理想	性的マイノリティのスカウトが周囲の理解と配慮によって心理的な安全性が保たれた環境でスカウティングを行う。
		スカウト	全てのスカウトがシスジェンダー（異性愛者であり、かつ身体的性と性自認が一致している人）というわけではなく、他にも様々な性自認や性的指向を持つスカウトがいるという多様性を理解し、そのようなスカウトに配慮した行動を取る。
		成人	宿泊や更衣をはじめ、性的マイノリティに属するスカウトがいる可能性を考慮したスカウティングの支援を行う。 性的マイノリティについてスカウトが学ぶ機会を設ける。
		RCJ	RCJでプログラムやイベントを行う際に性的マイノリティのスカウトがいることも配慮した計画を行う。
		日本連盟	性的マイノリティに関連した配慮について、成人指導者に向けた指針の提示やプログラム作成時の留意事項として追加する。
5	障がい者スカウトの支援	理想	障害を持つスカウトが、適切な支援を受けながら、他のスカウトと同様にスカウティングの教育効果を享受する。
		スカウト	誰にでも「できること」と「できないこと」があるのだということを認識し、仲間の「できないこと」に対して自分が「できること」がないか考え、行動に起こす。

	成人	「発達障がいのある青少年を支援する指導者のガイドブック」等を参考にしながら、障がいの有無を理由に接し方を変えるのではなく、それぞれのスカウトの個性を認識し、一人ひとりに合わせた指導・支援ができるように努める。
	RCJ	スカウト向けに提供する情報やイベントのプログラムなどにおいて、障がいを持つスカウトにとって理解や参加の障壁になっている要素がないか評価し、ある場合に可能な限り障壁が小さくなるような配慮を行う。
	日本連盟	アグナリーなど、障がいを持つスカウトでも参加できるイベントやプログラムを継続的に提供する。 スカウトや成人向けの配布物やホームページなどの情報媒体において、ユニバーサルデザインを積極的に採用する。

E. 社会的影響と外部連携

スカウティングは、社会との結びつきなくしては成立しない活動です。それゆえに、スカウト活動は常に社会に対してどのような影響を与えるのか考えながら行われる必要があります。影響の与え方は、スカウト個人、地域団、日本全体など様々なレベルがあり得ますが、それらすべてが「より良き社会の実現」に関わっていることは間違いありません。もちろん、スカウトを社会で活躍する人材に育てることも、社会に影響を与えるスカウティングの重要な役目の一つです。社会的影響は、他の団体や官民と連携することで相乗効果を生むこともあります。スカウティングの強みを活かしつつ、あらゆる手段をもって社会により影響を与えていくことが期待されています。

1	社会的影響の認識と実践	理想	スカウティングの社会への影響力が組織内部で認識され、構成員がこれを生かした活動に取り組む。
		スカウト	スカウティングが社会に与えている／与える影響について調査し、そのために自分がどのように関わることができるのか考える。 プロジェクト企画の際に、その活動がどの程度社会に影響を与えるのかを考慮する。
		成人	スカウティングの社会的影響力について認識し、普段の活動やスカウトの教育によってどのような影響を社会にもたらすことができるのか考える。
		RCJ	全国のスカウトに対し、社会的影響のある活動事例を紹介すると同時に、RCJが取り組む事業の社会的影響についても評価し、必要に応じて改善する。
		日本連盟	スカウティングが社会に与える影響について、スカウトや成人に対して意識付けを行い、運動全体の社会との結びつきを強化する。
2	社会に開かれたスカウティング	理想	スカウティングの提供する価値が、組織と加盟員の内部だけにとどまらず、社会全体に広く開かれた状態になる。
		スカウト	スカウティングで身につけた知識や技術を、社会生活の中で活かすとしたら、どのようにすべきか考え、仲間や成人と話し合う。
		成人	スカウトが、活動で得た知識や技術を日常生活でも活かすことのできるようなプログラムを実施する。 スカウトフェスティバルなど、一般の方にスカウト運動を知ってもらえる機会を増やす。
		RCJ	ソーシャルメディアやオンラインツールを活用して、スカウティングをより多くの人に体験してもらう方法を検討し、実践する。
		日本連盟	現状加盟員のみが享受できる恩恵のうち、一般に開放することで社会的に影響を与えるも

			のを検討し、可能であれば実践する。
3	ローバーから社会へ	理想	ローバースカウトが、卒業後をイメージしながら活動する。
		スカウト	自身の活動が社会に出た際にどのように活かすことができるのかイメージし、将来の具体的なプランを考え仲間と語り合う。
		成人	スカウトの活動が、社会に出た後にも役立つように支援を行う。
		RCJ	実際に社会で活躍しているスカウトOB・OGについて調べ、ローバースカウトとのつながりを維持する。
		日本連盟	社会人として、どのようにスカウティングを活かすことができるのかについて、スカウト向けにいくつかのモデルを紹介する。
4	野外活動の価値向上	理想	野外活動の面白さや大切さが再認識され、スカウティングの内外にその価値が広まる。
		スカウト	野外活動の魅力を一般の人々に伝える方法を考え、成人の支援のもと実際に活動を企画し、実施する。
		成人	隊のキャンプに一般の方を招待するなど、スカウティングでしか体験できない野外活動の魅力を伝える。
		RCJ	野外活動の面白さを若者世代に知ってもらうためのコンテンツを考え、各種インターネットメディア等を通じて広く共有する。
		日本連盟	スカウティングなりの野外活動の魅力を再定義し、一般の人々の興味を引きそうなコンテンツやプログラムを提供する。
5	防災・減災・災害復興支援	理想	スカウティングが、防災・減災および災害からの復興支援に役立てられる。
		スカウト	スカウティングで得た技術や知識が、防災や減災の観点からどのように活かすことができるか考え、実際に社会に対してアウトプットする。 災害にあった地域の人々がどのような困難を抱えているのか調査し、スカウトとしてできる範囲で復興支援に継続的に取り組む。
		成人	「全国防災キャラバン」や独自の防災・減災のためのプログラムの実施を通じて、スカウトと一般の人々がともに災害への備えをすることができるよう支援を行う。 日本連盟が提供する災害復興状況の情報等をもとに、スカウトのニーズと能力に応じた最適な復興支援のあり方を助言し、支援を行う。
		RCJ	全国のスカウトが取り組んでいる防災・減災運動をホームページ等を通じて共有し、他のスカウトの参考になるような情報を提供する。 ローバースカウト年代が取り組むことのできる復興支援活動をまとめ、必要に応じて全国のスカウトおよび成人に情報提供を行う。
		日本連盟	「全国防災キャラバン」を始めとした、スカウティングの知識や技術を一般の人々に共有し、防災・減災に役立ててもらうための取り組みを、継続的かつ様々な機会を利用して提供する。 災害復興支援団体との提携等を通じて、全国の災害復興の状況を把握し、スカウティングとして貢献できる局面では積極的に手を差し伸べる。
6	地域活性化への貢献	理想	スカウティングを通じて、全国の地域が活性化される。
		スカウト	自分の住んでいる地域の魅力と、抱えている課題を把握し、地域を盛り上げるためにスカウトとして何ができそうか考え、隊員や成人に提案する。
		成人	スカウトの提案をもとに、地方公共団体や地域の活性化に取り組む各種NPO・NGO等と連携し、地域活性化のための具体的なアクションをスカウトとともに起こす。
		RCJ	全国のスカウトが取り組んでいる地域活性化の動きをホームページ等を通じて共有し、同様の課題を抱えている他の地域のスカウトのロールモデルになるような情報を提供する。

		日本連盟	地域活性化に取り組む団や地区に対して、連携可能な団体や他地域の取り組みの様子を紹介するなどして支援を行う。
7	団体等との連携	理想	他の青少年団体やNPO・NGO等との連携を強化し、それぞれが強みを活かして社会全体に利益をもたらす。
		スカウト	ボーイスカウトのような青少年団体に他にどのようなものがあるか調べ、それぞれの目指す理想や特徴をまとめる。
		成人	ボーイスカウト以外の青少年団体について知り、地域レベルで共同して行える活動がないかスカウトの意見をもとに考え、実施する。
		RCJ	他団体のローバースカウト年代との情報・意見交換の機会を設け、継続的な連携基盤を構築する。
		日本連盟	他の青少年団体等と組織レベルの意見交換の場を設け、共通課題の達成におけるボーイスカウトの役割を再認識すると同時に、有機的な協力関係を築く。
8	官公庁や企業とのコラボ	理想	国・地方公共団体や民間企業と積極的に連携し、社会のあらゆる文脈でスカウティングが信頼・評価される。
		スカウト	一つの社会問題を取り上げ、それに対して国・地方公共団体、民間企業およびボーイスカウトのような公益法人がどのように関係しあっているのか調べ、まとめる。
		成人	地方公共団体や地元の企業等と協力し、スカウトが社会課題に取り組むことのできる環境や機会を構築する。
		RCJ	大学やベンチャー企業等、ローバースカウト年代との関わりが深い団体や企業とのコラボレーションを検討し、実現に向けて努力する。
		日本連盟	「ワクワク自然体験あそび」等の事業を積極的に誘致し、スカウティングが公的・私的のあらゆる文脈に浸透するよう推進する。

F. ガバナンスとコミュニケーション

スカウティングのような大規模な運動において、ガバナンスのあり方は重要です。大きな組織故に体制の変更は容易ではありませんが、時として、抜本的な改革が求められることもあります。また、大きな組織であるからこそ、縦横の風通しを良くし、円滑なコミュニケーションを可能にすることが大切です。

1	(ローパー部門における)登録制度の見直し	理想	登録制度が、スカウトや成人の活動様式に即したものに改善される。
		スカウト	現状の登録制度の課題について同世代のスカウトと話し合い、成人やRCJに対して提案を行う。
		成人	スカウトや成人から示された登録制度の改善点を日本連盟に対して提案する。
		RCJ	全国の地域ローパーコミュニティや大学ローパーコミュニティとともに、より良いローバースカウト部門の登録制度のあり方について検討し、日本連盟に提案する。
		日本連盟	現場のスカウトや成人へのヒアリング等を通じて、現行の登録制度の課題を調査し、改善する。
2	RCJの組織基盤の	理想	RCJの地位が確立され、ローバースカウトのための実効的な組織として機能する。



強化	スカウト	RCJについて知り、自分の地区や地域（都道府県/地方）の青年代表に必要であれば意見をあげる	
	成人	地区/地域/RCJ主催の活動に参加できるように支援する	
	RCJ	日本連盟に対し、RCJの地位の確立を働きかける。 RCJ構成員に対して定期的に国内スカウティングに関するアンケートを実施し、ローバースカウトの声を直接拾う機会を創出する。また、同一の質問を3年間行うことで三カ年計画の成果を測る。	
	日本連盟	RCJを教育規程に明記し、ローバースカウトによる意思決定機関として認定する。	
3	国際 フォーラム派遣団との連携強化	理想	国際フォーラム派遣団と各種関係機関の連携がスムーズになる。
	スカウト	国際フォーラム派遣団の動向に注目し、派遣団に対して情報提供や意見表明を求める上でRCJを活用する。	
	成人	国際フォーラム派遣団による主張や提案が、国際会議派遣団の決定や日本連盟の事業等にどのように反映されているかチェックする。	
	RCJ	RCJと国際フォーラム派遣団のコミュニケーションを密にし、情報や意見の交換が円滑に行えるよう仕組みを整える。	
	日本連盟	国際フォーラム派遣団と国際会議派遣団及び日本連盟同士の情報や意見の交換が十分に行えるよう仕組みを整える。	
4	スカウトと成人間の連携	理想	共通の課題や問題意識について、地域や立場の隔たりを超えた横断的なプロジェクトが企画、実施される。
	スカウト	自身が抱えている課題認識や問題意識を全国のスカウトや成人と共有し、共同プロジェクトの企画、実施に関与する。	
	成人	スカウトや自身が抱えている課題と同様の認識を持つ人々と繋がり、地域や立場の異なる者同士で共同プロジェクトを企画、実施する。	
	RCJ	全国のスカウトや成人が課題の共有や意見交換、プロジェクト実施をすることができるようなプラットフォームを日本連盟と協力して実装する。	
	日本連盟	全国のスカウトや成人が課題の共有や意見交換、プロジェクト実施をすることができるようなプラットフォームをRCJと協力して実装する。	
5	メンタルヘルス	理想	スカウト及び成人のメンタルヘルス（心の健康）が保たれた活動が展開される。
	スカウト	自身が普段の活動の中で精神的に不健康だと感じる場面を挙げ、仲間や成人と話し合う。	
	成人	メンタルヘルスの重要性を認識し、スカウトおよび他の成人が精神的に健康な状態で活動できる環境を築く。	
	RCJ	ローバースカウト年代に固有のメンタルヘルスを害する要素を洗い出し、その対策を全国のローバースカウトに共有する。	
	日本連盟	メンタルヘルス相談窓口やカウンセラーを設けるなど、スカウトや成人が活動中に感じる精神的負担と、そこから生じる健康被害が少しでも解消されるような制度や手法を検討し、導入する。	
6	セーフフロム・ハーム	理想	安全で健全なスカウティングを享受できるよう、スカウト・指導者・日本連盟が一体となりセーフ・フロム・ハームの教育を推進する。
	スカウト	セーフ・フロム・ハームの被害を受けた際の具体的な対処法及び手順を理解する。	
	成人	セーフ・フロム・ハームの登録前研修を毎年行い、スカウトに対して積極的に教育を行う。	
	RCJ	ローバー年代がセーフ・フロム・ハームに関する実践法や考えを交換できる場を設ける。	



		日本連盟	スカウトに向けたセーフ・フロム・ハームの教育を推進する。 スカウトが精神的・肉体的被害を受けた際の具体的な対処法を周知し、各部門のスカウトが被害に遭った場合正しい手順を踏めるようにする。
7	相談窓口 の開設	理想	一定のパーソナルペースが守られ、全てのスカウティング関係者が悩みや課題を解消する機会を持つ運動になる。
		スカウト	セーフ・フロム・ハーム通報相談窓口の存在を認知する。
		成人	カウンセリング等への窓口にスカウトがアクセスできるように導線を確保する。
		RCJ	課題や障壁に個別対応できる仕組み作りへの支援と、実装時の告知・認知向上を行う。
		日本連盟	すべてのスカウト及び成人指導者に対して、それぞれが抱える課題や障壁に対して個別に対応する仕組み(カウンセリングなど)を設ける。 スカウトの心理的負担を和らげるため、既存の「セーフ・フロム・ハーム通報相談窓口」の前段階的な相談窓口としてリスニングイヤー等の仕組みを設ける。

□ 提言説明用スライド



資 料

第14回世界スカウトユースフォーラム報告書 添付資料一覧

資料No.	資料タイトル
資料1	第13回WSYF日本代表団報告書.pdf
資料2	世界スカウトユースフォーラムガイドライン(Document 2).pdf
資料3	WSFY Quiz - Google フォーム.pdf
資料4	世界フォーラム・世界会議ドキュメント一覧
資料5	日本派遣団紹介スライド.pdf
資料6	世界フォーラム全体スケジュール(Document 1v2).pdf
資料7	世界会議決議案に対するインターナショナルチームからの修正案.pdf
資料8	ユースアドバイザー候補者の概要(Document 3).pdf
資料9	第14回世界スカウトユースフォーラム 最終宣言 日英対訳表(更新中)
資料10	14WSYF 日本代表投票内容記録表
資料11	世界会議決議案のフォーラム修正案 日英対訳表
資料12	世界会議決議案に対する世界フォーラム修正案及び採択結果の対応表
資料13	第42回世界スカウト会議-概要報告(日本連盟作成).pdf
資料14	第42回世界スカウト会議報告書(決議委員会作成).pdf
資料15	第42回世界スカウト会議 採択文.pdf
資料16	RCJX RS Forum用スライド



関連リンク集

[第14回世界スカウトユースフォーラム報告書 添付資料一覧](#)